

提 言 書

～第5次亀岡市総合計画策定に向けて～

第5次亀岡市総合計画市民会議

目 次

1	本提言書の提出にあたって	1
2	本提言書について	2
3	まちづくりへの提言	4
(1)	目指す都市像への提言	4
(2)	まちづくりへの基本理念への提案	7
(3)	各分科会の提言	10
【安全・安心、健康づくり・福祉】	分科会	10
【生涯学習・教育】	分科会	14
【生活環境、産業】	分科会	17
資料		21
(1)	協議内容の経過	22
(2)	用語説明	46
(3)	市民会議委員名簿	47
(4)	市民会議開催経緯	48

1 本提言書の提出にあたって

本提言書は、今後の亀岡市の協働※のまちづくりの指針となる第5次亀岡市総合計画（以下、「総合計画」という。）の策定に向けて、第5次亀岡市総合計画市民会議（以下、「市民会議」という。）の提言をまとめたものです。

市民会議においては、亀岡市が直面する人口減少をはじめとする課題や将来像、施策や市民・事業所・行政の役割分担など熱心に話し合い、市のまちづくりに対する思いが数多く提案されました。本提言書は、こうして出された委員の意見をもとにまとめたもので、今後の亀岡市のまちづくりのあり方を示す重要な提言と考えます。

市におかれましては、本提言書の示す亀岡市の目指す都市像や理念、方策を十分に検討の上、総合計画を策定していただきたいと思います。

令和元年 10 月 26 日

第5次亀岡市総合計画市民会議

会 長 山 本 眞 之 介

副会長 加 藤 美 智 恵

委 員

足 立 潤 哉

石 田 数 美

井 尻 清 行

井 尻 浩 嗣

板 倉 瑛 二

糸 井 芳 宏

井 上 典 代

今 井 睦 予

裏 川 幸 彦

江 見 彩 香

大久保 伸 一

奥 山 理 子

小 野 奈津子

高 橋 昭 人

谷 村 岳 志

玉 記 道 子

十 倉 康 吉

中 澤 ふ み

中 島 清 人

仲 田 丞 治

中 西 一 夫

人 見 紀 帆

法 貴 雅 男

細 川 武

村 田 奈 央

森 口 茂

森 洋 子

八 木 辰 夫

(50 音順)

2 本提言書について

■ 目的

亀岡市の各種分野団体の推薦者や公募委員等計 30 人で構成する市民会議が、令和 3 年度を初年度とする総合計画に対して提言を行うもので、市民の視点から日常肌で感じるまちづくりへの思いを示すものです。

■ 開催経緯

第 1 回市民会議ではワールドカフェ※の手法を導入し、分野横断的な視点から亀岡市のまちづくりについて広く意見交換を行いました。第 2 回市民会議からは、参加者の希望を尊重しながら【安全・安心、健康づくり・福祉】、【生涯学習・教育】、【生活環境、産業】の 3 分科会に分かれ、第 5 回市民会議までの間、分野別の議論を行い、第 5 回の全体会議で提言書を承認しました。

第 1 回 【全体会議】	日時：6 月 8 日（土） ○亀岡市の良いところ、良くしたいところについて（ワールドカフェ）
第 2 回 【3 分科会】	日時：7 月 6 日（土） ○まちづくりの将来像、将来像を実現するための課題
第 3 回 【3 分科会】	日時：7 月 27 日（土） ○課題解決策及び方向性の提案①
第 4 回 【3 分科会】	日時：8 月 24 日（土） ○課題解決策及び方向性の提案②
第 5 回 【3 分科会】	日時：9 月 14 日（土） ○提言書について
第 6 回 【全体会議】	日時：10 月 26 日（土） ○市長へ提言書提出、市長との懇談

■ 分科会別テーマ

第 5 次亀岡市総合計画市民会議分科会構成		
分科会名	テーマ	何れの分科会にも共通のテーマ
安全・安心、健康づくり・福祉 分科会	セーフコミュニティ、防災・消防、交通安全・防犯、消費者保護、健康づくり・医療、地域福祉、子育て支援、高齢者福祉、障がいのある人の支援	○人権尊重・平和 ○男女共同参画 ○コミュニティ ○市民協働
生涯学習・教育 分科会	生涯学習、就学前教育・学校教育、社会教育、文化芸術・歴史文化、生涯スポーツ、地域間交流・国際交流	
生活環境、産業 分科会	自然環境、地球環境・省エネルギー、資源循環・廃棄物処理、市街地、景観保全・形成、公園・緑地、農業、林業、商業、ものづくり産業、観光、就労支援	

■ 提言書の構成

提言書は「まちづくりへの提言」「資料」で構成しています。

「まちづくりへの提言」は、会議全体として提言する目指す都市像とまちづくりの理念、及び分科会ごとの提言としており、本提言書の本体です。「資料」は最終の提言に至った各分科会での協議経過と主な意見及び関連資料を掲載しています。

3 まちづくりへの提言

(1) 目指す都市像への提言

私たち市民会議は、亀岡市が今後、市民の誇りである自然、歴史、文化を次代に継承することを第一義とし、快適で安心できる生活環境を実現し、すべての市民がいきいきと明るく、助け合い、共に暮らすことができる活力あるまちを目指すことを提言します。

また、豊かな自然に育まれた田園環境、快適な都市的環境、多彩な歴史に彩られた文化を併せ持つ本市の特性から、これらすべてを活かしたまちづくりを提言します。

＜市民会議が提言する亀岡市の目指す都市像＞

その1 あなたを守ります。自然や歴史も守ります。水と緑のまち亀岡

【考え方】

日常生活の中でまず、安心して暮らせる環境（自然・セーフコミュニティ※）が必要。そして、夢が心豊かに有る生活を送りたい人々は一歩居られる。まずこれが出発点であります。日常生活の知恵や道しるべは歴史の遺徳も大切。サッカー場が完成すれば全国から人が来られるこの人たちも丁寧にモテナシ（守り）、良い感触でそれぞれの故郷（クニ）へお帰りになれば…大事なことです。

その2 水と緑と文化・スポーツ推進都市 かめおか

【考え方】

水・緑・文化については今まで通り、スタジアムの関係に伴い『スポーツ』を入れる。

その3 豊かな自然環境と古代からの歴史・文化に育まれた 共生のまち かめおか～助けあい 学びあい 生き生き輝く生涯学習都市～

【考え方】

亀岡市が近畿の自治体で初めて生涯学習都市宣言をしたのは昭和 63 年（1988 年）。早や 30 年が過ぎました。人が生涯にわたって学び続けることが、世界の平和にとって大事なことという生涯学習の理念が、深い感銘を以て市民に受け入れられた宣言です。今世界の混沌や異常気象など、地球や世界の未来を考えたとき、私達は無知ではられません。今こそ近畿圏初めての生涯学習都市としての誇りを示し、今一度学ぶことの大切さを全ての市民と共有するときと思います。亀岡の豊かな自然を守り、歴史・文化を継承し、差別のない、明るい社会を作っていくために、学びの環境を整え、全ての市民が、生き生きと輝けるまちづくりを実現します。

その4 **豊かな水と緑に彩られ静かな町亀岡は大きく変貌する。それは文化と観光に秀でた町になる。**

**文化面では一流の美術館を設け、内外の優れた作品を展示する。
観光面では優れたホテルを誘致し、また湯の花も散策できる姿にする。**

更に京都の大手企業を誘致し、若年層の流出を防ぐ。

ここに亀岡は、真の10万都市となる。

【考え方】

抽象的な表現、美しい言葉を並べた都市像は夢のビジョンに過ぎない。目指す都市像には具体性が問われる。

その5 **人と自然の共生のまち かめおか ～子育てを楽しむまちづくり～**

【考え方】

(記載なし)

その6 **・文化と自然の調和するまち きょうと・かめおか**

・未来へ伸びゆくまち 亀岡

・心温まるつながりのあるまち 京都亀岡

【考え方】

豊かな自然と食材の宝庫であることを今一度見つめ、先人の姿を想起させつつ、新時代を切り拓くコンセプトを折り込みました。知名度向上のためにも、京都・亀岡は外国人のみならず全国への発信力強化につながると考えます。

その7 **世界的有名な京都野菜の聖地 かめおか**

自然を満喫できる町 かめおか

【考え方】

京野菜を、トヨタ自動車のような世界的ブランドの商品の確立を目指し、生産地として亀岡の農業を活性化させる。都会の人が自然を楽しみに来られる町にするために、貸し農園やレジャー体験としての自然を使った遊べる場所を作る。

その8 **豊かな四季、文化の薫りただよう、ひと（人）支え合い慈しみ、笑顔あふれるまち かめおか**

【考え方】

豊かな四季の自然の中で、人々が培ってきた歴史の中の文化の薫りを、住民みんなが心情（こころ）にとめて、互いに慈しみ、支え合いながらこぞってまちづくりに参加する。

その9 **水・緑・文化が織りなす、笑顔と活力のまち かめおか**

【考え方】

第4次亀岡市総合計画との継続性をふまえつつ、亀岡の良さをさらに活かすとともに、マイナス面をプラスに生かす発想の転換を図り、賑わいのあるまちづくりを進める。

その10 活力に満ちた中核都市 亀岡

【考え方】

亀岡市は豊かな自然、歴史文化に恵まれ、温かな気質の貴重な地域です。住んでいる人・訪ねてくる人にとって、この価値に改めて気づいていただくことが大切なことです。京都市に隣接し、この利点を活かしつつ、大阪府・兵庫県とのつながりの強化を図る必要があります。近畿圏の中核都市として貴重なロケーションです。産業・経済面でも発展の可能性が期待できます。そのためには社会インフラの充実・整備と積極的な企業誘致が原点となります。

その11 オンリーワン亀岡 ～地域の独自性が活きる愛郷心と活気

溢れるまちづくり～

【考え方】

市民の生活において必要とされる様々なジャンルにおいて（市民会議で議論している内容）やりがいを感じられるようにする。そうすることで、亀岡で生活することに生きがいを感じ、老若男女、市民一人ひとりが、亀岡に愛着を持ち、定住化につなげる。

その12 一人ひとりが輝き つながりあうまち 亀岡

～多様性の尊重と持続可能なまちづくり～

【考え方】

「地域力再生」と言われて久しいが、少子高齢化が急速に進む中、地域課題の解決とともに住みやすい（生きやすい）まちづくりを目指すには、「地域が本来持っていた力」を取り戻す、「エンパワーメント※」することが重要であると考えます。「個」の多様な考え方や生き方が尊重され、市民・企業・行政が主体的かつ対等性を保ち、「つながり」「協働」することで、小さな生活圏から市全体の課題解決と活性化が図られ、人や環境に優しい持続可能なまちづくりへと発展するものという考え方。

その13 市民総活躍 みんなで創るまち かめおか

【考え方】

市民一人ひとりがチャレンジャーとして「まちづくり」を一緒に創り上げて新たな亀岡を推進していきます。

その14 住み続けられるまち かめおか

【考え方】

若い人が人生の転機においても住み続けることができ、高齢者になっても安心して住むことができるまちを目指す。

その15 自慢したくなるまち 亀岡

【考え方】

自慢したくなるということは、亀岡のことを十分知り、好きでなければ自慢したいとはなりません。そのためには亀岡が市民にとって良いまちでなければならないということになります。なので、自慢したくなるようなよい亀岡になって欲しいというのこめて、「自慢したくなるまち 亀岡」

(2) まちづくりの基本理念への提言

目指す都市像を実現するため、すべての施策において共通して尊重していくまちづくりの基本理念を、次の通り提言します。

その1 豊かな自然の継承と新しい伝説の創出

【考え方】

大都市京都市に近いが豊かな自然にあふれている亀岡の良さを引き継ぎ活かしつつ、就農や新規事業の開拓を進め、市としての新たな伝統を創り出す。

その2 活気ある街／自然の活用

【考え方】

農業が盛んになることにより、働く場所が増え、人口増加につながり、農地が守られ、活気ある街となると考えます。

その3 豊かな自然環境とスポーツを通じて健康の創造

【考え方】

豊かな自然については今まで通り、スタジアムを含めたスポーツへの関心と感動を得て、市民の健康力を高めます。

その4 ①安心して子育てができるまち

②定住人口の増・帰住の促進

③全ての住民が必要とされるまち

④多様性が豊かなまち（外国人支援・多文化との共生）

【考え方】

少子化対策、定住人口増の原点は亀岡市の近くで仕事があり、住居が確保されることから始まります。他府県から帰住できる環境も必要です。「都会への人口流出（供給）型から人口流入（定住／（帰住）型」への転換。「子育て世代が住みやすい環境づくり」がキーワードです。加えて、全市民が安心して過ごせる「居場所」と必要とされる「出番」がキーワードです。今後は外国人の就労・居住・教育・安全・福祉など、「多文化との共生」を必要とする時代になっていくでしょう。

その5 ・市民一人ひとりの意欲を伸ばす環境の推進

・豊富な職業選択と移動手段の利便性向上

・ふるさとを学ぶ教育環境の推進

【考え方】

人口の増減は亀岡の発展に大きく寄与する要因のひとつです。市民の定住や他地域からの転入を目指し、人口の増加を図るためには、ここに住む理由が必要です。まずは市民の個性や学びを支援し、成長を実感する「生きがい」。次に、日々の生活を支える「働きがい」。そして、亀岡を学び、自主的な学びを得る機会が「住みがい」。以上で目指す都市像に繋がると考えます。

- その6
- ・ **市民の積極的な参画の安全な街づくり**
 - ・ **既存の亀岡の豊かな自然を守り大切に**
 - ・ **亀岡の歴史の考査と先人の遺徳を学び生活の糧に**

【考え方】

自助、協助、公助があるなかで今日的には自助は難しい局面がある。やはり、協助、公助で物事を整理して進めていく。新旧入交りという辞がある。昭和、平成、令和となり、明治、大正がいなくなった今世。年代差も大である。この点の「こなし」「ならし」をうまくやらんと「まとめ」に難儀するのではなかろうか、基本理念は。どの年代からも理解が得られるものとしたい。

- その7
- ・ **市民が主体となって街を創る**
 - ・ **郷土愛育む**
 - ・ **魅力アップ**
 - ・ **刺激的な**
 - ・ **発見がたくさん**

【考え方】

「亀岡には何もない」という市民感情が多い現在から、市民がプライドを持ち、わくわくするような街創りを進めていくことを理念として含むことが大切であると考えます。

- その8
- ① **コネクト型まちづくりの創成**
 - ② **自助・共助・公助で築く地域共生社会**

【考え方】

①小さな単位の町区で、多世代対応の地域包括支援体制を構築し、その小さな単位同士や市の統括部署が相互に連携し合う、主体的かつ自由度の高い連携体制を築いていくことで、共助の取組の増進、災害にも強い地域づくりができる。また、そのプロセスにおいて、住民のエンパワーメントが図られ、地域力が活性化する（地域力再生）。

②少子高齢化の進行、多様化する住民ニーズ・地域課題、行政需要の増大、こうした今後予想される状況に、行政だけですべての対応は困難であり、市民・企業・行政の「協働」のもと、市民一人ひとりが「自分のこと」として捉え、お互いに支え合う「顔の見える」地域共生のまちづくりを進めていくことが必要。

- その9
- 市民参画・協働推進**
 - スタジアムを核とした賑わいのあるまちづくりの推進**
 - 行政の見える化～行財政改革の推進～**

【考え方】

（記載なし）

- その10
- 改革の推進**
 - 安全・安心・助け合い**

【考え方】

今までと状況が大きく変わるであろうことを踏まえて、改革の意識を行政の職員のみならず市民も持つことが大切と考えた。

その 11 **安心・安全／生涯学習／ノーマライゼーション**※

【考え方】

安心・安全…平和で豊かに暮らしたいというのが人間の欲求であるため。
生涯学習…学習というものから生きる喜びや人とのつながりが生まれる。
ノーマライゼーション…子どもから高齢者まで暮らしやすく。

その 12 **生涯学習都市としての事業の推進**

【考え方】

（「目指す都市像への提言 その3」と重なりますが）亀岡市が生涯学習都市宣言をして 30 年が過ぎました。幼少期から生涯にわたって学び続けることが、世界平和への唯一の道であるという生涯学習の理念を再認識し、市民 1 人ひとりが生涯学習都市の住人であることを誇りとし、学校教育はもちろんのこと、あらゆる学びの好循環を創るために、行政と市民が一体となった協働のまち作りを推進していきます。

その 13 **市民が亀岡の魅力を感じる機会の創出**

（郷土愛がまちの活性化を産み出す）

【考え方】

市民が亀岡を愛することは、まちの活性化を産み出す一番の源です。亀岡の魅力を発信する核としての施設の建設や事業は、亀岡の人口の増加にも影響する喫緊の課題です。あらゆる市民が集い学べる場としての新資料館（博物館）建設を市民と協働で実現させます。特に学校教育の場では、小学校・中学校・高等学校を通して、郷土の歴史・文化について学習する機会があることが、亀岡の未来への希望に繋がります。

その 14 **描く都市像を実現するため、広い視野と国内各都市を眺めて、信念と熱意をもって取り組むこと。**

【考え方】

何事も執念と熱意なくしては達成できない。

その 15 **働き・暮らし・学び…まるごと楽しむ**

【考え方】

（記載なし）

その 16

—

【考え方】

住民すべて、老若男女を問わず「まちづくり」に、それぞれの立場から、それぞれの想いをひとつにして、慈しむ（弱い立場におかれた者をも大切にする）ことを念頭に、笑顔を忘れずに参稼・参画する。

(3) 各分科会の提言

【安全・安心、健康づくり・福祉】分科会

■ まちづくりの方策 ～市民の視点からこんな取組を提案します～

[健康づくり]

取組（施策や事業）	取組の主体
健康づくりは、日々身近な場で継続的に行うこと、また個々よりも近隣の市民が集い行うことで、地域のつながりも相乗効果として構築できることから、毎朝の公園でのラジオ体操を実施するなどの取組の推進	市民
各地域で主体的に行っている健康づくり活動を情報収集し、先進事例として市全体に向けて示すなど、市民の主体的活動の支援を図る。併せて、地域の公園や公的広場などに誰もが身近に安全に使える器具（機具）の設置、行政の助成も含めて考える 背筋矯正的なもの、ぶら下がり器（背筋伸ばす） 腕の筋力・握力の増進（瞬発力増強）→高齢者の転倒防止（ケガ減少）	協働
地域での主体的な取り組みをすすめるには、個々の集まりだけで継続することは難しいと考えられるため、自治会よりも小さな単位（小さな生活圏）での、健康づくりリーダーの養成、及びリーダー間のネットワークづくりを図り、身近な地域での健康づくり活動を支援・推進	行政
健康寿命の延伸のためには、生涯を通じた健康づくりが重要であり、特に子育て期の壮年期、身体機能の低下が始まる中年期における活動は重要であることから、事業所（企業）における健康の習慣づくり（朝のラジオ体操など）を促し、高齢期への準備期間としての充実を図る	事業者
地域での取り組みを進めるためには、平日頃からの関係性を良好に保つことが大切であり、非常時にはこの地域力が発揮されることになる。まずは「あいさつ」の輪を広げ、地域コミュニティの強化を図る	市民

[地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉・子ども福祉]

取組（施策や事業）	取組の主体
地域福祉活動には、顔の見える関係が基本であり、日常生活圏で行われる地域行事に市民が積極的に参加すること。また、旧来行ってきた日々の活動（家の前面道路や周辺の清掃等）で、近隣住民とのコミュニケーションを図り、住民相互のつながりづくりを促進し、地域での住民の見守り活動の充実を図る	市民

福祉の相談内容は多岐にわたることが多く、市民ニーズに効率的・効果的に対応するため、福祉の総合相談窓口を創設し、コーディネーターを配置して、各専門分野と連携する仕組みで、ワンストップでの支援の円滑化を図る	行政
子どもと保護者を対象として、教育委員会と健康福祉部のさらなる連携を進めるためのしくみづくりを検討し、総合的な子育て環境の向上や相談支援等の充実と円滑化を図る	行政
民生委員児童委員の活動は、複雑多岐にわたり、厚労省任命の委員で地域の個別課題に対応することは困難になってきている。市の仕組みとして、民生委員単位に民生委員のサポート担当を1～2名設けることにより、支援の充実を図るとともに、改選時のスムーズな推薦につながる候補者の確保につなげる	行政
市には複数の相談の協議会やネットワーク会議が設置されており、こうした協議会等にはどの会議にも属している重複委員がある。この協議会等を大きな一つのネットワーク会議に再構築するなど、組織のスリム化を図る。情報共有、コーディネートの円滑化を実現しながら、委員の負担軽減と費用弁償などの経費軽減を図る	行政
市民の集いやすいエリアを基準として、地域住民が身近な場所で健康相談ができたり、世代間交流ができる場所をつくり、市民主体の持続可能な地域社会づくりを推進する。 行政職員等の巡回相談や、地域での人材確保・育成などを行い、地域での生活の安心を保持し、地域力増進へつなげる。 また、各地域に、全世代向けの地域包括支援体制の構築とその環境整備を進める	行政 協働
楽しい、安心、感動、明日への希望をつくろう。 共生のまちを目指す、世代を問わずご近所さんが気軽に集まりゆるい会話を気軽にすることで、互いの絆を深めていく居場所づくりをする。地域サロン※をつくり、歩いて行ける場所、例えば個人宅や空家など少人数ででも話せる雰囲気づくりをする。それから少人数一自治会一行政へと顔が見える、声が聞こえる、分かり易い行政であってほしいと願います。	協働
保育士や介護、看護といった「ケア」に携わる人の処遇を改善することにより、福祉の充実を図る	行政 事業者

[男女共同参画]

取組（施策や事業）	取組の主体
男女共同参画に関する情報発信を進めるとともに、あらゆる場面における男女の構成割合が7：3以上になるよう実効性のある計画的・段階的な取組を進める	行政 協働
あらゆる団体や組織が、女性の活躍を支援し、政策等の立案及び決定の場への参画、またそのための制度や慣行の在り方に配慮した環境づくりを促進するよう、より積極的な普及・啓発の推進	行政
男女共同参画社会の推進は、あらゆる社会課題に対応するための重要な施策であり、その意識と仕組みは、あらゆる分野にわたり浸透されなければならないことから、その要である行政の担当部署の充実を図って推進すること	行政

[安全・安心・災害]

取組（施策や事業）	取組の主体
緊急時対応には常日頃からの備えが重要であり、地域の連絡網等を作成しておくなど、有事の際におけるスムーズな対応方策の充実を図る	協働
避難場所や避難指示、避難ルートの理解といった災害対策等について、市域全体のものは地域の細かな状況までの把握は難しく、各地域版の作成など市民に寄り添った視点による理解促進を図るとともに、縦割りにならない行政内部の「市民の立場に立った視点」の周知を図る	行政
要支援者名簿等を活用（個人情報の問題はあが）し、災害時要支援者の救助をルール化するなど、有事の際における各地域の現場での対応の円滑化を図るための計画と情報共有	行政 協働
地域の防災訓練への積極的な参加	市民
子どもの登下校の安全・安心を確保するため、マニュアルの周知・啓発を継続的に行う	協働
地域の拠点づくりの推進による、市民一人ひとりの居場所づくり	協働
子どもを地域で見守る体制づくりの推進	協働
避難所等において女性の感性・考え方が普通に理解されるような仕組みづくりの一環として、物資面だけでなく、心理的な支援として「女性相談アドバイザー」を養成し配置する	行政

[人材発掘]

取組（施策や事業）	取組の主体
同じ人がいくつもの団体で掛け持ちして活動しなくてもいいよう、様々な人脈を活用して人材発掘を行う	協働
各地域における各種団体の交流を定期的に行い、様々な方面から事業の周知を行う	市民
さまざまな組織で高齢化が進んでおり、また役員もなり手がいないという状況が見受けられる。組織の活性化を図り、地域の担い手を育成し地域力を高めるために、自治会、老人会等の役員における任期を3年以内など一定期間に定めるとともに、役員に過大な負担が偏らないような仕組みづくりと女性登用を含め人材発掘も行う	市民

[ボランティア]

取組（施策や事業）	取組の主体
幅広い年齢層がボランティア活動に携われるよう、また社会への理解が得られるような機運を醸成するため、活動に工夫を凝らすなどの取組を行う	協働
ボランティアの形は多様で幅広い為、既設の組織をよく観察しながら、時代の流れの中で、無償ボランティアに頼るのではなく、有償ボランティアの拡充のしくみを確立するよう検討する また、ボランティア協会における高齢者や女性の多い状況を改善すべく、社会全体のボランティアへの理解促進の風土づくりに取り組む	協働
行政による財政支援を行い、ボランティア活動を活性化	行政
ボランティアに関する相談窓口を設置するとともに、日常生活、災害時等の人材不足の解消、防犯推進などの種別、そして責任の所在等も含め整理し、一般市民が円滑にボランティアに取り組めるよう支援・推進	行政
病院、市役所や買物等に向かう際に、自身では移動できない方への送迎車の運用	協働

[情報]

取組（施策や事業）	取組の主体
亀岡市の広報紙「キラリ☆亀岡おしらせ」の紙面は、文字が小さすぎて、情報を伝えるという目的に合致しているとは考えにくい。情報を「伝える」意識の向上とともに、文字サイズを大きくして情報発信するなど、受け手側の視点に立った、分かりやすい広報活動の推進を図る	行政

【生涯学習・教育】分科会

■ まちづくりの方策 ～市民の視点からこんな取組を提案します～

[生涯学習、芸術]

取組（施策や事業）	取組の主体
自然、歴史・文化、風俗、音楽、絵画を楽しみ、学べるような施設の整備	協働
芸術家と市民の交流の場を創出するなど、生涯学習都市であることを前面に打ち出すことによる、シビックプライド※の醸成	協働
学術研究都市や首都圏など、他市町村との連携を図るとともに、サテライトオフィスの設置の検討	行政
乳児から高齢者、それぞれのライフステージ※に応じて、生涯学習を再定義し、ライフステージごとの取組の推進	協働
生涯学習の学びの好循環の（学びをつなげていく）視点に、人材育成や市民協働、男女共同参画の視点を盛り込んで事業を実施していく	協働
亀岡の歴史・文化を学ぶ場、亀岡への郷土愛を育む場として文化資料館を位置づけ、内容の充実を図るとともに、新資料館（博物館）建設の早期実現	協働
総合型地域スポーツクラブの推進など、すべての市民が生涯スポーツを楽しむことができる仕組みの推進	協働
市民が取り組んできた趣味・特技を共有するための趣味の会やサークルが組織しやすくなる仕組みづくりとともに活動内容の充実を図り、その受け皿となる公民館・自治会館の利用対象を広げるなど開放し、利用者同士の交流を活性化	協働
文化資料館独自のホームページを開設し、持続可能な情報発信の推進	行政

[地域・家庭]

取組（施策や事業）	取組の主体
主に就学前の子どもを持つ親を対象とした、気軽に足を運べ、親同士が子育てに関して情報交換したり交流できる地域のコミュニティづくり	協働
就学後の学習意欲の格差をつくらないう、親に対し、就学前教育の大切さの周知	行政
各地域における児童館の充実	行政
放課後における子どもの居場所の確保	協働

取組（施策や事業）	取組の主体
自然を生かした公園などをつくったり、今ある公園を充実させるなど、人が集える場所の創出	協働
市内各所にスポットを整備し、歩いて学べるような仕組みの構築	協働
子どもが亀岡への愛着を育むことができるよう、地域教育の充実を図り、市を支える市民の育成	協働
図書館の利用ルールを変更し、学習・勉強の場として利用できるようにするなど、利便性の向上	行政
食育の推進・普及	協働

[学校教育]

取組（施策や事業）	取組の主体
障がいのある児童生徒や外国人児童生徒のコミュニケーションを円滑化すべく、支援の充実を推進する (提案の根拠) ・教員の数には児童生徒数による定数があり簡単には増員できない。自治体で行うと多額の費用が必要なこと ・行政だけでなく市民ぐるみ（ボランティアの有効活用等）で推進する	協働
それぞれの子どもにあったカリキュラムを市民の手で構築するなど、子どもたち一人一人を大切にする教育の充実	協働
学校におけるノーマライゼーションの推進	行政
ふるさと教育に留まらず、実践学習として外での体験活動の活発化	行政
学校の空き教室を有効利用すべく地域に開放し、地域における生涯学習の拠点や自習スペースのとしての整備の推進	協働
校外授業を増やし、住んでいる地域の外の亀岡にふれる学習の推進	行政
施設面（ハード）の整備と教育内容面（ソフト）の充実を意識した、各学校における双方の適切な均衡が図られた教育行政の推進	行政
小学校のみでなく、中学・高校においても地域やふるさとについて学ぶ機会の創出。その一つとして、安全な新文化資料館（博物館）の早期実現	行政
学校内への図書館の分館設置による、学習機会の充実	行政
フリースクール [※] など、子どもの多様な学びを支援するシステムの充実	協働
多様な性的指向や性自認の子どもたちに対する適切な支援の充実	行政

[社会教育]

取組（施策や事業）	取組の主体
在住外国人に対して、日本語習得支援を行う	行政
情報発信を地域のケーブルテレビで行う	行政
情報センターや学習センターとしての図書館という位置付けのもと、学習スペースの拡充。また、新刊の取り扱いの増加や開館時間の延長	行政
図書館やギャラリーなどの既存施設について、発信力強化のための整備、若者のニーズに沿った活用方策の推進	行政
地球環境子ども村活動の充実・推進	行政
亀岡市の歴史遺産の活用方策の検討、情報発信の推進	協働
ギャラリーの改装・増築を行うとともに、立体駐車場等の設置に向けた用地取得の検討	行政

【生活環境、産業】分科会

■ まちづくりの方策 ～市民の視点からこんな取組を提案します～

[移動手段・共有]

取組（施策や事業）	取組の主体
高齢者が免許を返納した後、買い物に行くなど生活維持のために生じる移動手段イメージの明確化（他自治体の取組を参考にする）とともに定着を図る。また、移動の充実とともに交流機会も増えることから、それが生活の質の向上にもつながりうるという情報発信の充実	行政
移動するための資源の共有化を進め、市民はもとより、観光に訪れる人が市内の移動をも楽しめるような環境の充実	協働
店舗や空き家、自転車といった資源の共有化を図るとともに、レンタルなどシェアの視点に寛容になるような意識の醸成	協働
高齢者の移動がスムーズになるよう、ふるさとバスの目的の明確化とともにコミュニティバスとの棲み分け・充実。また、NPO や民間事業者による移送システムの充実	協働
農業従事者が作物を出荷する際、タイミングを計って他の従事者と相乗りし、出荷ができるような仕組みづくり	事業者

[ゴミ・空き家問題]

取組（施策や事業）	取組の主体
問題化する空き家やゴミ屋敷の解決に向けた取組の推進	協働
空き家について、市民からの情報提供がしやすくなる仕組みづくり	協働
ゴミを分別せずに捨て、地域の組長などに分別を任せるといったモラルの低下がうかがえることから、ゴミの分別やゴミ問題に関する意識啓発を行い、意識の醸成を図る	協働
有料ゴミ袋の値上げにより、ゴミ意識の向上を図る	行政
マイボトル、プラスチックゼロの実践へ向けて、市民一人ひとりに対してはもちろん、企業や業者に対してもさらなる支援を行う	行政
農村に点在する空き家を交流の場所として利活用する	協働
空き家をアート空間として利活用する	協働

環境先進都市推進の組織体制の構築とともに、脱プラ・エコのまちの取り組みを推進する。その中で、市民の全員参加による一斉清掃を実施するなど、循環型社会に資する社会にする。	協働
---	----

[コンパクトシティ※・集約化]

取組（施策や事業）	取組の主体
亀岡駅前のみならず、市内の JR 各駅前の活性化に向け、店舗の集約化や自治機能の向上を図るなど、コンパクトシティ化に向けた取組推進によるにぎわいづくり	協働
店舗・住居・病院・スーパーなど、生活に必要なすべてがまかなえるよう、駅を中心としたまちづくり（コンパクトシティ化）の推進	協働
駅周辺に病院やレジャー施設・憩いの場を設置し、利便性の向上を図る	協働
マイナンバーサービスの推進を背景としながら、IC カードやキャッシュレス決済サービスの活用に対して、行政職員の理解促進とともに MaaS※への活用を検討	行政

[先端産業]

取組（施策や事業）	取組の主体
排水やにおいについて、環境技術を活用して対策を講じる一方、においの活用に向けた技術開発を、京都先端科学大学との協働により推進	協働
排水や汚物の無臭化とともに、農業への利活用（サイクル化・有用化）の推進	協働
亀岡の豊かな水とそれを支える土壌（堆積層）の利活用方策の研究・検討	協働
京都先端科学大学との連携を図り、亀岡独自の産業を開発・推進	協働
医、工、産、農、森などのあらゆる分野における、ビッグデータの活用方策の検討	協働

[企業・個人事業]

取組（施策や事業）	取組の主体
産業活性化のために企業誘致を推進	協働
大企業にこだわらずに本社機能の誘致を図り、活性化を推進	行政
産業間の交流・集積を図る	協働
企業による講座を開催し、専門知識の付与を図る	協働
ターゲットを絞った集客を図るために、昭和を感じる店づくりの推進	事業者
空き店舗の家賃を抑えながらチャレンジショップとして活用を図り、商業活動の活性化を推進	協働
市民への情報発信を充実し、事業挑戦者がチャレンジしやすく、成功・失敗事例が共有できる環境づくり	市民

[農林業・商工業]

取組（施策や事業）	取組の主体
世界展開を視野に入れた農産物を生産する	事業者
農家がサラリーマンのように安定した収入が得られる職業となるよう、取組を推進	事業者
スタジアム横の農地を活用し、休日に農家として農業に従事したり、農業にチャレンジできるような、休日農園・チャレンジ農園の整備	事業者
亀岡産木材を活用し、小さい頃から木にふれあうことができるウッドスタート事業の実施。および、一定の年齢における記念品の配付	行政
亀岡牛を技術革新と掛け合わせるにより、研究開発を行う	事業者
亀岡牛の世界的展開を見据え、牛小屋の最適な環境構築、その技術を販売するなどの取組を行う	事業者
丹波地鶏や亀岡ブランド米をはじめとした生産物のアピールを推進するなど、農業・畜産分野のさらなるブランド化の推進	協働
空き家等の有効活用として生活用品ポストの集約化・設置を推進し、生産者と消費者を直接的につなぎ、再配達によるロスを防ぐなどの利便性向上を図る	事業者

[観光]

取組（施策や事業）	取組の主体
都会から亀岡に来てもらえるよう、情報発信の充実とともに、回遊の仕組みづくりを行う	協働
京都との相対化により亀岡観光の印象付けを行うとともに、「走る」「歩く」の視点から展開する	協働
亀岡の自然景観の見どころをつないだ、市民参加によるプロモーションビデオを制作するとともに、情報発信を行う	協働
亀岡の農業や工業を体験できるような仕組みの構築	協働
宿泊施設の創意工夫を図り、滞在客の増加を図る	事業者
亀岡ならではの自然が満喫できるようなレジャー・文化施設の充実	事業者
オール亀岡花火大会観覧スポットの整備をするとともに、スタジアムや市内観光レジャーを位置付ける	協働

資 料

(1) 協議内容の経過

【安全・安心、健康づくり・福祉】分科会

◇ 第1回 亀岡市の良いところ、課題（ワールドカフェ形式）

～安全・安心～【セーフコミュニティ、防災・消防、交通安全・防犯、消費者保護】

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 消防団活動は、男性にとってよい情報源になっている
- 地元住民の安全意識が高く、一部では特につながりが強い
- セーフコミュニティがしっかりしている
- セーフコミュニティ亀岡が市民に大分浸透してきた
- 交通パトロールや登下校の見守り活動がある

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 災害時の外国人サポートが必要
- 有事の際、または起こりつつある事態（警報など）を周知させる手立てがない
- 人との関わりよりもお金（見返り）を求める人が多い
- 助け合いの心は弱い（自分本位）

～健康づくり・福祉～【健康づくり・医療、地域福祉、子育て支援、高齢者福祉、障がい者支援】

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 子どもを育てるには良い環境（亀岡の位置、自然、ほどよく都会）
- 高齢者間の交流が多く、高齢者が元気（サロン活動、グランドゴルフクラブ等）
- 福祉が充実している
- 比較的、やさしい人が多い

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 定年後に戻ってきても高齢者人口が増える
- 高齢者の方と若者との交流が少ないところ
- 公園等、施設が少ない

～人権の尊重・市民協働～【人権尊重・平和、男女共同参画、コミュニティ、市民協働】

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 地域性としては、顔の見える関係がつくりやすい
- 色々な団体が活動している
- ひとのつながり

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- “ひとりの人”として意見を言えない関係性。特に旧町。できているところもある
- 諸行事・イベントなどの周知がなかなか難しい
- 市民（若者）のふるさと意識の欠如

◇ 第2回 亀岡市の良いところ、課題（以降、分科会形式）

① テーマ・キーワード

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 幸せを感じる街づくり
- 一人一人が大切にされる街づくり
- 一人一人のつながりの輪
- 顔がみえるつながり
- 地域でおたがいに見守り

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- ころろ ふれあいのまちかめおか
- 心ゆたかな町づくり

② 地域交流の希薄

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 旧市(住)民と新(転入)市民との考え方の相違…
- 近所(団地)の交流・つながりが薄い
- 小さなコミュニティ(身近なところ)で世代間交流、健康づくりの場が必要
- 順番で当たる町内の役員ばかりに全て頼って(委ねて)いる(民生委員の仕事まで)
- 地域内の団体間連携
- 市民協働の促進はよいが無償ボランティア→有償ボランティアへ転属
- つながるしくみが必要
- 情報が行き渡りにくい

③ 人口

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 世帯が増えている
- 出た人が帰ってくるようなまちづくり

④ 地域差

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 地域ごとの規模の大きさに差があり、それが大きい

⑤ 空家・公共交通・施設・企業誘致

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 馬堀駅前の団地でも空家が増えてきた
- 買物に行くのに不便である
- イベントの周知 イベント会場への移動手段(福祉関係)
- 古民家の活用(空き家の活用)
- 子どもや高齢者等が運動できる公園広場が少ない。公園では、遊具が減っている
- 国道が混みやすいのでその場合抜け道として通学路等通る車が多く危険な事が多い
- 古き良き町屋が古くなり壊されていく 風景がなくなる
- 公的施設が中心部(市の)に多い(周辺部から行きにくい)
- 一人暮らしの高齢者が一人で病院に行けない(田舎ではバスがない)交通問題
- 企業の誘致
- 文化対策を強化する必要(市政は関心低い)

⑥ 健康づくり

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 生涯を通した健康づくりプランがある(市)
- 健康意識が高い
- 人材学習の機会は各地域でもたれている

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 健康づくりの(高齢者)に対する方策
- 元気な老人ばかりを求めているか
- 中高年の健康づくり
- 健康づくりを継続して実施する制度がほしい

⑦ 高齢者・障がい者

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 今後の介護サービスについて不安は大きい(後期高齢者人口の増加による)
- 何かをしたいが高齢者だけでは中心的に活動するのが困難
- 晩婚化や平均寿命の延長による老々介護 8050
- 認知症の高齢者が一人で生活されている方が多く施設に入所ができない
- 高齢者が増加(人口減少)の中で「にぎわいのまち」へ進めるのは?
- 「障がい」はその特性によって、課題が異なる。細やかな理解と支援が必要
- 生活保護も増えている

⑧ 男女共同参画

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 男性中心の行政自治を改善する必要がある
- 女性の参画を促進する⇒あらゆる場で女性をあたり前に認めること
- ワークライフバランス 老若男女とも大切
- 男性の地域・家庭生活における活動を若年期から可能とする働き方改革が重要

⑨ 交流の場

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 高齢者と町の役で地域でサロン活動 役員が車でむかえに
- 南つつじでは講演会等イベントを行っている参加できる
- ボランティア活動があらゆる場で積極的に行われている
- 消防団の活動は交流の場がとても良い
- 農村部では人のつながり顔の見える関係がある

⑩ 防災・災害時、災害セーフコミュニティ

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 【災害時】福祉課が各自治会に要支援者名簿を持って区の役員と民生が協力して対応できた。地域福祉・社協ががんばってもらっている
- 災害時はコミュニティがよくなる
- 地震の安全意識は高い 防災に対して

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- セフコミは「守る」だけでなく「危機管理」も必要
- 災害が発生した時の周知が細かく各家庭(人)まで行き届いていない

⑪ 子育て環境

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 子ども達が素直である
- 子育てひろばがある(行くところがある)
- 児童虐待件数増⇒掘りおこしが進んできた。通報の意識があがってきた
- 乳幼児の安全・安心についてセフコミの取組が活発

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 子ども(人口)を増やすことばかり考えていないか
- 児童虐待をはじめとする相談・対応の充実には体制づくりも必要
- 小学校の児童が少なく友達で遊ぶ時間がなく、一人遊び(ゲーム)が多くなり外で元気に体を動かす事がない(体力低下)
- 出産時のサポート(特に2人目以降)

⑫ 自然・歴史

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 自然が多いので子育てに良い
- 多様な家庭がある
- ほどよく田舎ほどよく交通等便利
- 歴史自然が豊かである
- 歴史がある事

◇ 第3回 取組アイデア及びプロジェクト名の検討

① 健康づくり

内 容（取組アイデア）

- 毎朝ラジオ体操(公園で) 希望者(情報交換)
- 地域での取組を市全体で、ex 健康体操の取組とか、身近なところで継続してできること
- 老人、学生(声のかけあい) 近所の方顔をあわせたらあいさつする“知らない人にはしていない”
- 自治会単位で健康維持の活動を始める

② 地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉・子ども福祉

内 容（取組アイデア）	
●	地域行事への参加
●	表(家の前)の掃除ついでにおとなりも→井戸端会議→コミュニティ
●	福祉の総合相談窓口があればワンストップでいろいろな課題が「人」を中心に相談できる
●	高齢者、障がい者、子ども等、地域の中で包括的に相談支援ができる体制づくり(地域包括支援体制)
●	自治会の担当役員が高齢者宅を訪問困りごと(雑談)
●	子育て環境、相談などで「教育」と「福祉」の関係を深くして支援することが必要
●	集まり易い単位で地域づくりを行っていく
●	相談窓口には相談員(専門)だけでなく、多方面へつなげる「コーディネーター」の配置で円滑な課題解決へ
●	高齢化と人口減少の中、様々な分野で、人材確保と活用するため、持続可能な社会づくりのためコンパクト行政地域での充実が必要
●	民生委員単位に準民生委員を1～2名設ける

③ 男女共同参画

内 容（取組アイデア）	
●	女性が外に出ること(消防団に入ること)に対して男性(夫)の理解が得られない・活動の啓発が不十分？
●	仕事・子どもに関すること以外で外へ出られることへの不満？

④ 安心・安全・災害

内 容（取組アイデア）	
●	緊急連絡網を作っている（隣へ TEL、声をかけるだけ）
●	行政の縦割が市民感覚とずれているところを是正してほしい
●	災害時要援護者の救助をルール化する

⑤ 人材発掘

内 容（取組アイデア）	
●	人材発掘、同じ人がいくつもの団体で活動している
●	「ケア」する人の(保育士・介護・看護)待遇改善で福祉の充実を
●	地域内の各種団体の定期的な交流をすることで様々な事業への周知がいろいろな方面からできるのではないかな
●	自治会、老人会等、役員の任期を3年以内と定め、人材発掘を行う

⑥ ボランティア

内 容（取組アイデア）	
●	市民の相談にスピーディーに的確な対応をするために、各分野のもつ「相談ネットワーク協議会」を統括して、コーディネートすることも
●	ボランティア活動が年齢的に幅広い人材が集まれるような工夫を考える…、一般社会に理解が得られるようなムードを再構成出来るように
●	ボランティア協会は高齢者・女性が多い無償ボラではなく交通費くらいの有償ボラにする
●	ボランティア活動を活性化させる為に所轄行政の財政的な支援が必要
●	一般市民のボランティアがスムーズに推進出来る様、行政に相談窓口必要（各分野の交通整理をして推進の指針を支援）

⑦ 情報

内 容（取組アイデア）	
●	市内の情報ツールの大きなものは、市の「お知らせ」だけど最近のは、文字が小さすぎて、見る気にならない。情報を「伝える」広報紙
●	「まちづくり」「まち」「町」「街」 統一？

◇ 第4回 提言内容及び取組主体の検討

① 健康づくり

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	毎朝ラジオ体操(公園で)希望者(情報交換)	毎朝の公園でのラジオ体操による健康づくりの取組の充実	市民
2	地域でのとりくみを市全体で、ex 健康体操のとりくみとか、身近なところで継続してできること	各地域で主体的に行っている健康づくり活動が身近なものになるよう、市全体に向けて周知	協働

3	老人、学生(声のかけあい)近所の方顔をあわせたらあいさつする“知らない人にはしていない”	あいさつによる地域コミュニティの拡充。	市民
4	自治会単位で健康維持の活動を始める	自治会単位で健康づくり活動の推進	協働

② 地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉・子ども福祉

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	地域行事への参加	市民が積極的に地域行事へ参加する。	市民
2	表(家の前)の掃除ついでにおとなりも→井戸端会議→コミュニティ	家の前や近所を掃除する中で、掃除エリアを可能な範囲で広げつつ、会話の輪を広げ、コミュニティの中で見守りを行う。	市民
3	福祉の総合相談窓口があればワンストップでいろいろな課題が「人」を中心に相談できる。	福祉の総合相談窓口を創設し、ワンストップで課題に対応。	行政
4	高齢者、障がい者、子ども等、地域の中で包括的に相談支援ができる体制づくり(地域包括支援体制)	地域包括支援体制の構築。	協働
5	自治会の担当役員が高齢者宅を訪問困りごと(雑談)	自治会の担当役員が高齢者宅を訪問し、雑談したり困りごとを把握するなどする中で、必要に応じて支援につなげる。	協働
6	子育て環境、相談などで「教育」と「福祉」の関係を深くして支援することが必要	教育委員会と健康福祉部のさらなる連携を行い、子育て環境の向上や相談支援の円滑化。	行政
7	集り易い単位で地域づくりを行っていく	市民の集いやすいエリアを基準として地域づくりを推進する。	市民
8	相談窓口には相談員(専門)だけでなく、多方面へつなげる「コーディネーター」の配置で円滑な課題解決へ	様々な課題解決のために相談窓口にはコーディネーターを配置することにより、専門職だけに止まらない多方面への支援の円滑化。	行政
9	高齢化と人口減少の中、様々な分野で、人材確保と活用するため、持続可能な社会づくりのためコンパクト行政地域での充実必要	一定の地域内において、持続可能な社会づくりができるよう、様々な分野で人材確保と活用を図り、コンパクト行政を推進する。	協働
10	民生委員単位に準民生委員を1～2名設ける	民生委員単位に準民生委員を1～2名設けることにより、支援の充実を図る。	協働

③ 男女共同参画

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	女性が外に出ること(消防団に入ること)に対して男性(夫)の理解が得られない・活動の啓発が不十分? ・仕事・子どもに関すること以外で外へ出られることへの不満?	女性消防団の活動について、より積極的な普及・啓発の推進。	行政
2	男女共同参画をすすめ、生活者の視点を活かすためこの分野にも7:3以上の男女比を	男女共同参画に関する情報発信を進めるとともに、あらゆる場面における男女の構成割合が7:3以上になるよう努める。	協働

④ 安心・安全・災害

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	緊急連絡網を作っている(隣へ TEL、声をかけるだけ)	緊急時の連絡網を作成し、有事の際における対応方策の充実。	協働
2	行政の縦割れ・市民感覚とずれているところを是正してほしい	災害対策等について、市民に寄り添った視点による行政機構への是正。	行政
3	災害時要援護者の救助をルール化する	災害時要援護者の救助をルール化することにより、有事の際における対応の円滑化。	協働

⑤ 人材発掘

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	人材発掘、同じ人がいくつもの団体で活動している	同じ人がいくつもの団体で掛け持ちして活動しなくてもいいよう、様々な人脈を活用して人材発掘を行う。	協働
2	「ケア」する人の(保育士・介護・看護)待遇改善で福祉の充実を	保育士や介護、看護といった「ケア」に携わる人の処遇を改善することにより、福祉の充実を図る。	事業者
3	地域内の各種団体の定期的な交流をすることで様々な事業への周知がいろいろな方面からできるのではないか	各地域における各種団体の交流を定期的に行い、様々な方面から事業の周知を行う。	市民
4	自治会、老人会等、役員の任期を3年以内と定め、人材発掘を行う	自治会、老人会等の役員における任期を3年以内などのように一定期間で定めるとともに、人材発掘を行う。	市民

⑥ ボランティア

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	市民の相談にスピーディーに的確な対応をするために、各分野の「相談ネットワーク協議会」を統括して、コーディネートすることも	各分野における「相談ネットワーク協議会」を統括し、コーディネートを行いながら、市民の相談にスピーディーかつ的確に対応する。	行政
2	ボランティア活動が年齢的に幅広い人材が集まれるような工夫を考える…、一般社会に理解が得られるようなムードを再構成出来るように	幅広い年齢層がボランティア活動に携われるよう、また一般社会に理解が得られるような機運を醸成するため、活動に工夫を凝らすなどの取組を行う。	協働
3	ボランティア協会は高齢者・女性が多い無償ボラではなく交通費くらいの有償ボラにする	無償ボランティアだけではなく、有償ボランティアも検討する。また、ボランティア協会における高齢者や女性の多い状況を改善すべく取り組む。	協働
4	ボランティア活動を活性化させる為に所轄行政の財政的な支援が必要	行政による財政支援を行い、ボランティア活動を活性化させる。	行政
5	一般市民のボランティアがスムーズに推進出来る様、行政に相談窓口必要（各分野の交通整理をして推進の指針を支援）	ボランティアに関する相談窓口を設置し、一般市民が円滑にボランティアに取り組めるように支援。	行政
6	病院や市役所等、買物に行く為に車を何人かで乗れる様にする。送り迎えしてほしい。	病院、市役所や買物等に向かう際に、自身では移動できない方への送迎車の運用。	市民

⑦ 情報

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	市内の情報ツールの大きなものは、市の「お知らせ」だけ最近のは、文字が小さすぎて、見る気にならない。情報を「伝える」広報紙	情報を「伝える」広報紙である意識のもと、文字サイズを大きくして情報発信するなど、受け手側の視点に立った情報発信の充実。	行政
2	「まちづくり」「まち」「町」「街」 統一？	広報紙や、行政からの情報発信における表記の中で、「まち」について表記を統一する。	行政

⑧ その他（意見）

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	静かに平穏に暮らしたい	(※意見内容として掲載するにとどめます)	市民

【参考】プロジェクト名

No	内容
1	はじまりはあいさつから
2	あいさつからはじめようプロジェクト
3	みんなの声でまちづくり!!プロジェクト
4	小さなお節介プロジェクト
5	安心で安全な街はまず明るい、朗らかな気持ちで人と接したい
6	(安心、朗らかな街づくりプロジェクト)(暖かい心がけのまちづくりプロジェクト)(正直な街づくりプロジェクト)
7	E.B.P.M エビデンス①科学的根拠 ベース②土台を科学的根拠とする ポリシー③こんな考え方で メイク④まちづくり
8	「ワンストップ」で多分野つなごうプロジェクト(相談・支援)
9	全ての分野で男女比7:3以上プロジェクト
10	わたしの町でつくろう「新地域包括支援」の環境プロジェクト
11	活力あふれる町づくり

◇ 第5回 提言内容の確認

① 健康づくり

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	毎朝の公園でのラジオ体操による健康づくりの取組の充実	市民	健康づくりは、日々身近な場で継続的に行うこと、また個々よりも近隣の市民が集い行うことで、地域のつながりも相乗効果として構築できることから、毎朝の公園でのラジオ体操を実施するなどの取組の推進	—
2	各地域で主体的に行っている健康づくり活動が身近なものとなるよう、市全体に向けて周知	協働	各地域で主体的に行っている健康づくり活動を情報収集し、先進事例として市全体に向けて示すなど、市民の主体的活動の支援を図る。併せて、地域の公園や公的広場などに誰もが身近に安全に使える器具(機具)の設置、行政の助成も含めて考える 背筋矯正的なもの、ぶら下がり器(背筋伸ばす)腕の筋力・握力の増進(瞬発力増強)→高齢者の転倒防止(ケガ減少)	—

3	行政主導により、自治会単位で健康づくりリーダーを養成し、健康づくり活動を推進	行政	地域での主体的な取り組みをすすめるには、 <u>個々の集まりだけで継続することは難しいと考えられるため、自治会よりも小さな単位(小さな生活圏)での、健康づくりリーダーの養成、及びリーダー間のネットワークづくりを図り、身近な地域での健康づくり活動を支援・推進</u>	—
4	事業所(企業)における健康づくりの推進	事業者	健康寿命の延伸のためには、生涯を通じた健康づくりが重要であり、特に子育て期の壮年期、身体機能の低下が始まる中年期における活動は重要であることから、事業所(企業)における健康の習慣づくり(朝のラジオ体操など)を促し、高齢期への準備期間としての充実を図る	—
5	あいさつによる地域コミュニティの拡充	市民	地域での取り組みを進めるためには、 <u>常日頃からの関係性を良好に保つことが大切であり、非常時にはこの地域力が発揮されることになる。まずは「あいさつ」の輪を広げ、地域コミュニティの強化を図る</u>	—

② 地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉・子ども福祉

No.	取組(施策や事業)案	取組の主体案	協議後	
			取組(施策や事業)	取組の主体
1	市民が積極的に地域行事へ参加する	市民	※No.1、No.2を1つにまとめる 地域福祉活動には、顔の見える関係が基本であり、日常生活圏で行われる地域行事に市民が積極的に参加すること。また、旧来行ってきた日々の活動(家の前面道路や周辺の清掃等)で、近隣住民とのコミュニケーションを図り、住民相互のつながりづくりを促進し、地域での住民の見守り活動の充実を図る	—
2	家の前や近所を掃除する中で、掃除エリアを可能な範囲で広げつつ、会話の輪を広げ、コミュニティの中で見守りを行う	市民		
3	福祉の総合相談窓口を創設するとともにコーディネーターを配置し、ワンストップで課題に対応する。さらに、専門職だけに止まらない多方面への支援の円滑化を図れるよう連携を強化	行政	福祉の相談内容は多岐にわたることが多く、市民ニーズに効率的・効果的に対応するため、福祉の総合相談窓口を創設し、コーディネーターを配置して、各専門分野と連携する仕組みで、ワンストップでの支援の円滑化を図る	—
4	地域の中において、高齢者に限らず、障がい者や子どもも含めて、健康等について相談できる体制づくり	協働	※No.4、No.5、No.7、No.8を1つにして「No.11」へ	—
5	高齢者宅を訪問し、雑談したり困りごとを把握する中で、必要に応じて支援につなげることができるよう、担い手の確保とともに取組の推進	協働	※No.4、No.5、No.7、No.8を1つにして「No.11」へ	—
6	教育委員会と健康福祉部のさらなる連携を進めるため、専門職の人材配置(例:教育の場に福祉の視点を入れる養護の先生)を行い、子育て環境の向上や相談支援の円滑化を図る	行政	子どもと保護者を対象として、教育委員会と健康福祉部のさらなる連携を進めるためのしくみづくりを検討し、総合的な子育て環境の向上や相談支援等の充実と円滑化を図る	—
7	市民の集いやすいエリアを基準として地域づくりを推進	行政	※No.4、No.5、No.7、No.8を1つにして「No.11」へ	—
8	様々な分野で人材確保と活用を進めるとともに行政のコンパクト化を推進し、一定の地域区分を基準として持続可能な社会づくりを行う	協働	※No.4、No.5、No.7、No.8を1つにして「No.11」へ	—
9	民生委員単位に民生委員のサポート担当を1～2名設けることにより、支援の充実を図るとともに次の民生委員の確保につなげる	協働	民生委員児童委員の活動は、複雑多岐にわたり、厚労省任命の委員で地域の個別課題に対応することは困難になってきている。市の仕組みとして、民生委員単位に民生委員のサポート担当を1～2名設けることにより、支援の充実を図るとともに、改選時のスムーズな推薦につながる候補者の確保につなげる	行政
10	女性や児童虐待、高齢者等の各分野における協議会をネットワーク化・再構築するなど、組織のスリム化を図る。情報共有、コーディネート円滑化を実現しながら、市民の相談にスピーディーかつ的確に対応	協働	市には複数の相談の協議会やネットワーク会議が設置されており、こうした協議会等にはどの会議にも属している重複委員がある。この協議会等を大きな一つのネットワーク会議に再構築するなど、組織のスリム化を図る。情報共有、コーディネート円滑化を実現しながら、委員の負担軽減と費用弁償などの経費軽減を図る	行政

11	※No.4、No.5、No.7、No.8を1つに	—	市民の集いやすいエリアを基準として、地域住民が身近な場所で健康相談ができたり、世代間交流ができる場所をつくり、市民主体の持続可能な地域社会づくりを推進する。 行政職員等の巡回相談や、地域での人材確保・育成などを行い、地域での生活の安心を保持し、地域力増進へつなげる。 また、各地域に、全世代向けの地域包括支援体制の構築とその環境整備を進める	行政 協働
12	—	—	楽しい、安心、感動、明日への希望をつくろう。 共生のまちを目指す、世代を問わずご近所さんが気軽に集まりゆるい会話を気軽にすることで、互いの絆を深めていく居場所づくりをする。地域サロンをつくり、歩いて行ける場所、例えば個人宅や空家など少人数でも話せる雰囲気づくりをする。それから少人数—自治会—行政へと顔が見える、声が聞こえる、分かり易い行政であってほしいと願います。	協働
変更	保育士や介護、看護といった「ケア」に携わる人の処遇を改善することにより、福祉の充実を図る。	事業者	※⑤人材発掘のNo.2より移動 —	行政 事業者

③ 男女共同参画

No.	取組（施策や事業）案	取組の 主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の 主体
1	男女共同参画に関する情報発信を進めるとともに、あらゆる場面における男女の構成割合が7:3以上になるよう計画的・段階的な取組を進める	協働	男女共同参画に関する情報発信を進めるとともに、あらゆる場面における男女の構成割合が7:3以上になるよう実効性のある計画的・段階的な取組を進める	行政 協働
2	女性消防団のみならず、色々な団体が女性の活躍できる環境づくりのため、より積極的な普及・啓発の推進。さらに、避難所等において女性の感性・考え方が普通に理解されるような仕組みづくり	行政	あらゆる団体や組織が、女性の活躍を支援し、政策等の立案及び決定の場への参画、またそのための制度や慣行の在り方に配慮した環境づくりを促進するよう、より積極的な普及・啓発の推進 ※「さらに、避難所等において女性の感性・考え方が普通に理解されるような仕組みづくり」は、④安全・安心・災害へ移動	—
追加	—	—	男女共同参画社会の推進は、あらゆる社会課題に対応するための重要な施策であり、その意識と仕組みは、あらゆる分野にわたり浸透されなければならないことから、その要である行政の担当部署の充実を図って推進すること	行政

④ 安心・安全・災害

No.	取組（施策や事業）案	取組の 主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の 主体
1	緊急時の連絡網を作成し、有事の際における対応方策の充実	協働	緊急時対応には常日頃からの備えが重要であり、地域の連絡網等を作成しておくなど、有事の際におけるスムーズな対応方策の充実を図る	—
2	避難場所や避難指示、避難ルートの理解といった災害対策等について、市民に寄り添った視点による理解促進を図るとともに、行政機構の是正を図る	行政	避難場所や避難指示、避難ルートの理解といった災害対策等について、市域全体のものは地域の細かな状況までの把握は難しく、各地域版の作成など市民に寄り添った視点による理解促進を図るとともに、縦割りにならない行政内部の「市民の立場に立った視点」の周知を図る	—
3	かつての要支援者名簿を活用（個人情報の問題はあるが）し、災害時要支援者の救助をルール化することにより、有事の際における対応の円滑化を図る	協働	要支援者名簿等を活用（個人情報の問題はあるが）し、災害時要支援者の救助をルール化するなど、有事の際における各地域の現場での対応の円滑化を図るための計画と情報共有	行政 協働
4	地域の防災訓練への積極的な参加	市民	—	—
5	子どもの登下校の安全・安心を確保するため、マニュアルの周知・啓発を継続的に行う	協働	—	—
6	地域の拠点づくりの推進による、市民一人ひとりの居場所づくり	協働	—	—
7	子どもを地域で見守る体制づくりの推進	協働	—	—
8	さらに、避難所等において女性の感性・考え方が普通に理解されるような仕組みづくり	行政	※⑤男女共同参画のNo.2より一部移動 避難所等において女性の感性・考え方が普通に理解されるような仕組みづくりの一環として、物資面だけでなく、心理的な支援として「女性相談アドバイザー」を養成し配置する	—

⑤ 人材発掘

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	同じ人がいくつもの団体に掛け持ちして活動しなくてもいいよう、様々な人脈を活用して人材発掘を行う	協働	—	—
2	保育士や介護、看護といった「ケア」に携わる人の処遇を改善することにより、福祉の充実を図る	事業者	※②地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉・子ども福祉へ移動	行政 事業者
3	各地域における各種団体の交流を定期的に行い、様々な方面から事業の周知を行う	市民	—	—
4	自治会、老人会等の役員における任期を3年以内など一定期間に定めるとともに、人材発掘を行う	市民	さまざまな組織で高齢化が進んでおり、また役員もなり手がいないという状況が見受けられる。組織の活性化を図り、地域の担い手を育成し地域力を高めるために、自治会、老人会等の役員における任期を3年以内など一定期間に定めるとともに、役員に過大な負担が偏らないような仕組みづくりと女性登用を含め人材発掘も行う	—

⑥ ボランティア

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	幅広い年齢層がボランティア活動に携われるよう、また社会への理解が得られるような機運を醸成するため、活動に工夫を凝らすなどの取組を行う	協働	—	—
2	無償ボランティアだけではなく、有償ボランティアも検討する また、ボランティア協会における高齢者や女性の多い状況を改善すべく取り組む	協働	ボランティアの形は多様で幅広い為、既設の組織をよく観察しながら、時代の流れの中で、無償ボランティアに頼るのではなく、有償ボランティアの拡充のしくみを確立するよう検討する また、ボランティア協会における高齢者や女性の多い状況を改善すべく、社会全体のボランティアへの理解促進の風土づくりに取り組む	—
3	行政による財政支援を行い、ボランティア活動を活性化	行政	—	—
4	ボランティアに関する相談窓口を設置するとともに、日常生活、災害時等の人材不足の解消、防犯推進などの種別、そして責任の所在等も含め整理し、一般市民が円滑にボランティアに取り組めるよう支援・推進	行政	—	—
5	病院、市役所や買物等に向かう際に、自身では移動できない方への送迎車の運用	市民	—	協働

⑦ 情報

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	情報を「伝える」意識の向上とともに、文字サイズを大きくして情報発信するなど、受け手側の視点に立った、分かりやすい広報紙づくり	行政	亀岡市の広報紙「キラリ☆亀岡おしらせ」の紙面は、文字が小さすぎて、情報を伝えるという目的に合致しているとは考えにくい。情報を「伝える」意識の向上とともに、文字サイズを大きくして情報発信するなど、受け手側の視点に立った、分かりやすい広報活動の推進を図る	—

【生涯学習・教育】分科会

◇ 第1回 亀岡市の良いところ、課題（ワールドカフェ形式）

～生涯学習・教育～【生涯学習、就学前教育・学校教育、社会教育、文化芸術・歴史文化、生涯スポーツ、地域間交流・国際交流】

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）

- 亀岡市の歴史・自然は充実している
- ターゲットイヤーとしての機会を逃さず、スタジアムも有効活用して活性化を図る
- ガレリアはいろいろな人（老若男女・国籍問わず）が訪れられるし、訪れやすい居心地のよさ

● 大都市に近く、土地も広いので移住・定住につながるには子育てしやすい社会環境を整備したい
● 豊かな自然と大都市へのアクセス
● 講演会、充実している
● 生涯学習都市は素晴らしい！！
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 歴史や風土の史実や魅力が伝わっていない
● 生涯学習に対する多様性(内容、講師、開催時間帯)が必要
● 文化・芸術の発表の場が少ない(会場、ホール etc…)
● 文化・芸術・市政に無関心(予算少ない)
● 世代間交流を行う。就学前教育は高齢者の生きがいづくりに有効
● 市民ニーズに合った講演・イベントかどうか。意見を聞ける場や機会が必要
● 老朽化や時代に合わない備品・設備など、学校のインフラを更新する
● 各地域に小さなコミュニティ(ハード)が必要
● 林業、木育の推進
● 図書館大改革

◇ 第2回 亀岡市の良いところ、課題（以降、分科会形式）

① 創ろう学びの好循環 生き活き輝く生涯学習都市 亀岡

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 世界的文化都市京都近郊の有意性を生かせる
● 障がい者の参加の機会がある
● 思いやりのある人が多い(スーパーでの会話など)
● 子育て支援高齢者にやさしい街
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 投票率の低さ ← 無関心(市民協働)
● 本屋さんが少ない
● 道路、歩道の少なさ ⇄ 公共交通の不便さ(コミュニティ)
● 市民の亀岡への関心の薄さ
● 思いやりはあるが他人事である(人権尊重)

② より良い学校教育

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 学びのテーマを見つける。見つけやすくする。しかけ創り
● 長期休暇時も学校で授業があること
● 少人数での教育指導
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 進学できる高校が京都市内に比べるとやはり少ない(普通科)
● 障がいのある子の進学先が丹波支援学校しか用意されていない
● 小学校間の施設の格差、老朽化や備品の少なさ(古さ)
● 亀岡について学習する機会が小学校の時にしかない

③ 生涯学習都市

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 田舎に有利な学びの分野(e.g.自然、環境)に優れている農業、林業も
● 市民大学やさわやか教室等学習する機会が充実している
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 機会はあるのかもしれないけど、あることを知らない
● 学習の継続は楽しめること
● 生涯学習の基本理念が正しく市民に理解されているか

④ 豊かな自然を生かす

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 豊かな自然を生かした施設を創りやすい立地

● 亀岡の魅力は自然と歴史
● 山や川、身近にある自然の多さ
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 林業、木育の話題が少ない(意識の低さ？ あきらめ感)
⑤ 利用しやすい図書館
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 図書館で勉強ができない
● 学習できる場所が少ない
● 図書館の蔵書数(古い資料)、利用者の数の少なさ デザイン力？
⑥ 文化資料館は市民の活力の源
亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 円山応挙の生誕地は世界に一つ
● 学べる歴史がある
● 歴史、文化、芸術学びの機会づくりに力を入れる
● 文化資料館 低予算ながら魅力的な発信をしている
● 歴史的価値のあるもの、場所が多い(寺社、古墳、古道)
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 芸術にふれる環境 自ら創作できる環境
● 第4次総合計画には新資料館の基本計画まで入っているが、できるのかどうか不安
● 文化資料館の存在が、市民に知られてない(老朽化)
● 子供 → 情操教育 / 高齢者 → 認知予防 / ⇒ 音楽！！で
⑦ 文化施設の充実
亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 自習スペースがある
● ガレリア・スタジアムといった市を象徴するものが増えた
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 市民のニーズに応じたガレリアの改築 音楽ホール 必要
● 文化芸術の発表鑑賞の場が少ない(劇場 etc)
● 自習スペースはあるけれど教え合いができず居ごちが悪い
● (ガレリア利用者の促進について) 季節のかたより
● 用途の違いなどに苦労する
● 芸術にふれる機会が少ない
◇ 第3回 取組アイデア及びプロジェクト名の検討
① 生涯学習・芸術
内 容（取組アイデア）
● コミュニティバスの充実か、Uber の導入
● 亀岡ブランドの米の生産アピール
● 各文化施設をまとめた総合文化芸術館を。歴史、文化、風俗、音楽、絵画など
● 生涯学習都市を前面に出した施策を市の誇りに
● 他市町村との連携・学術研究都市・首都圏とか・サテライトオフィス
● 芸術家と市民が交流できる場の創出で市民の関心を
● 音楽や舞台に特化したホールを建てる
● 居場所づくり
● 亀岡の自然、日本の自然、世界の自然【総合自然館】教育的、観光ともに貢献できる
② 地域・家庭
内 容（取組アイデア）
● 親同士のコミュニティ作り(足を運びやすい)
● 親をサポートできる地域づくり

● 学習意欲の格差をつくらない(就学前教育)、就学前教育の充実
● 児童館の設置
● 放課後支援
● 大型(色々な)遊具のある公園をつくり、人の集まる場所をつくる
● 亀岡産木材を活用したウッドスタート事業(0、6、12、20歳でプレゼントも)
● 亀岡各地にトレイルを整備歩いて学ぶ
● 子どもたちが亀岡に愛着をもてば、亀岡を支える市民になる
● 図書館の利用ルール変更
● 食育

③ 学校教育

内 容（取組アイデア）	
●	学校の建替もしくはリフォーム（ICT の充実や室内の木質化防犯の強化）
●	学校に支援のための教員を増やす（障がい・外国人（日本語））
●	カリキュラムの市民化推進子どもたちに真の学力を（文科省の示すものでよいのか）
●	学校におけるノーマライゼーションの推進
●	亀岡の教科書だけでなく、特別活動として外へ出る。体感
●	学校の空教室を地域開放を地域の生涯学習のベースに
●	校外授業を増やす（自分の地域外に訪れる機会が少ない）
●	施設か（ハード）教育内容（ソフト）か
●	中学・高校でも亀岡について学べる機会を
●	新しい学校づくり現在の学校制度でよいのか
●	図書館分館を学校に設置
●	子どもたちが資料館で学べるように今は出前授業で対応している
●	自習スペースの充実
●	学習に特化した建物

④ 社会教育

内 容（取組アイデア）	
●	在住外国人向け日本語教育支援
●	情報発信→地域 CATV
●	学びの好循環の中に人材や市民協働も男女共同参画も
●	情報センター、学習センターとしての図書館・学習スペース
●	5倍に・蔵書整理 新刊も増やす・開館時間 10:00～21:00 に
●	資料館独自のホームページを
●	亀岡の古代からの歴史を知れば亀岡が大好きになる
●	歴史を学ぶ場としての資料館大事
●	新資料館実現は5年（早期）以内に（資料館の老朽化が進んでいる、宝物が守れない）
●	図書館、ガレリアなど若者のニーズに沿ったように変えていくのも大切
●	小学校から科学に興味をもたせる自然科学センターを
●	文化施設として建物を大きくする、ホールを併設する等目立つ取り組み
●	歴史的遺産の活かし方個人的には出口様（大本教）のすごさに感動する。発信力（誰に、どのように伝えるか）
●	ガレリア改装、増築、P 用土地取得（立体 P）
●	文化資料館・Web ページ・Instagram・Twitter 等 SNS 発信（持続可能な）
●	※地域史を学ぶことの大切さに気づく機会それは文化資料館※歴史の流れの中にいる自分を感じられる

◇ 第4回 提言内容及び取組主体の検討

① 生涯学習・芸術

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	コミュニティバスの充実か、Uber の導入	コミュニティバスの充実または、Uberの導入。	協働

2	亀岡ブランドの米の生産アピール	亀岡のブランド米の生産アピールをすることで、認知向上を図る。	協働
3	各文化施設をまとめた総合文化芸術館を。歴史、文化、風俗、音楽、絵画など	歴史・文化、風俗、音楽、絵画を楽しみ、学べるよう、各文化施設の機能を集約した総合文化芸術館を建てる。	行政
4	生涯学習都市を前面に出した施策を市の誇りに	生涯学習都市であることを前面に打ち出し、シビックプライド※を醸成する。(※都市に対する市民の誇り)	行政
5	他市町村との連携・学術研究都市・首都圏とか・サテライトオフィス	学術研究都市や首都圏など、他市町村との連携を図るとともに、サテライトオフィスの誘致の検討。	行政
6	生涯学習とは何か(乳児から高齢者まで)	乳児から高齢者、それぞれのライフステージに応じて、生涯学習を再定義し、取組を推進する。	協働
7	芸術家と市民が交流できる場の創出で市民の関心を	芸術家と市民の交流の場を創出。	行政
8	音楽や舞台に特化したホールを建てる	音楽や舞台に特化したホールの検討。	行政
9	居場所づくり	市民一人ひとりの肯定感を育む居場所づくり。	協働
10	亀岡の自然、日本の自然、世界の自然【総合自然館】教育的、観光ともに貢献できる	亀岡、日本、世界の自然を取り扱った総合自然館をつくることで、教育面はもとより、観光の振興にも寄与する。	行政

② 地域・家庭

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	親同士のコミュニティ作り(足を運びやすい)	気軽に足を運べ、親同士が交流できるコミュニティづくり。	協働
2	親をサポートできる地域づくり	地域が親をサポートし、親の負担を軽減できる地域づくり。	協働
3	学習意欲の格差をつくらない(就学前教育)、就学前教育の充実	就学前教育の充実を図り、学習意欲を育む。	行政
4	児童館の設置	児童館を設置する。	行政
5	放課後支援	放課後における子どもの居場所確保に取り組む。	協働
6	大型(色々な)遊具のある公園をつくり、人の集まる場所をつくる	色々な大型遊具を有する公園をつくり、人が集まる場所にする。	協働
7	亀岡産木材を活用したウッドスタート事業(0、6、12、20歳でプレゼントも)	亀岡産木材を活用し、小さい頃から木にふれあうことができるウッドスタート事業を行う。また、一定の年齢において記念品を贈る。	行政
8	亀岡各地にトレイルを整備歩いて学ぶ	市内各所にスポットを整備し、歩いて学べるような仕組みを構築する。	協働
9	子どもたちが亀岡に愛着をもてば、亀岡を支える市民になる	子どもが亀岡への愛着を育むことができるよう地域教育の充実を図り、市を支える市民を育成。	協働
10	図書館の利用ルール変更	図書館の利用ルールを変更し、利便性の向上を図る。	行政
11	食育	食育の推進・普及を図る。	協働

③ 学校教育

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	学校の建替もしくはリフォーム(ICTの充実や室内の木質化防犯の強化)	ICTの充実や室内の木質化、防犯の強化を図るべく、学校を建替もしくはリフォームを行う。	行政
2	学校に支援のための教員を増やす(障がい・外国人(日本語))	障がいのある児童生徒や外国人児童生徒のコミュニケーションを円滑化すべく、支援のための教員を増やす。	行政
3	カリキュラムの市民化推進子どもたちに真の学力を(文科省の示すものでよいのか)	カリキュラムを市民の手で構築するなど、子どもに真の学力を付与する。	協働
4	学校におけるノーマライゼーションの推進	学校におけるノーマライゼーションの推進	行政
5	亀岡の教科書だけでなく、特別活動として外へ出る。体感。	ふるさと教育に止まらず、実践学習として外での体験活動を活性化させる。	行政
6	学校の空教室を地域開放を地域の生涯学習のベースに	学校の空教室を地域に開放し、地域における生涯学習の拠点とする。	協働
7	校外授業を増やす(自分の地域外に訪れる機会が少ない)	校外授業を増やすことにより、住んでいる地域の外の亀岡にふれる。	行政
8	施設か(ハード)教育内容(ソフト)か	施設面(ハード)と教育内容面(ソフト)を意識した、適切な均衡が図られた教育行政の推進。	行政
9	中学・高校でも亀岡について学べる機会を。	中学・高校でも地域やふるさとについて学ぶ機会の創出。	行政
10	新しい学校づくり現在の学校制度でよいのか	現在の学校制度と地域における実情を踏まえ、適切な学校づくりを行う。	協働
11	図書館分館を学校に設置	図書館の分館を学校に設置することにより、学習機会の充実を図る。	行政
12	子どもたちが資料館で学べるように今は出前授業で対応している	子どもが資料館で、亀岡の歴史を気軽に学べるように機能を充実。	行政
13	自習スペースの充実	自習スペースの充実を図る	行政
14	学習に特化した建物	学習に特化した建物を建築する。	行政

④ 社会教育

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	在住外国人向け日本語教育支援	亀岡市在住の外国人に向けて、日本語教育の支援を行う。	行政
2	情報発信→地域 CATV	情報発信を地域の CATV で行う。	行政
3	学びの好循環の中に人材や市民協働も男女共同参画も	学びの好循環の視点に、人材や市民協働、男女共同参画の視点を盛り込んで実施。	協働
4	情報センター、学習センターとしての図書館・学習スペース5倍に・蔵書整理 新刊も増やす・開館時間 10:00～21:00 に	情報センターや学習センターとしての図書館という位置づけのもと、学習スペースを5倍に拡充する。また、新刊の取り扱いを増やすとともに、開館時間を現在よりも長くする。	行政
5	資料館独自のホームページを	資料館独自のホームページを構築し、情報発信を行う。	行政
6	亀岡の古代からの歴史を知れば亀岡が大好きになる 歴史を学ぶ場としての資料館大事	歴史を学ぶ場としての資料館を位置づけるとともに、亀岡への郷土愛を育む。	行政
7	新資料館実現は5年(早期)以内に(資料館の老朽化が進んでいる、宝物が守れない)	資料館の老朽化が進んでおり、様々な展示物が守れないことから、5年以内、あるいは早期に新たな資料館の実現を図る。	行政
8	図書館、ガレリアなど若者のニーズに沿ったように変えていくのも大切	図書館やガレリアなど、若者のニーズに沿った形での活用方策を検討。	行政
9	小学校から科学に興味をもたせる自然科学センターを	自然科学センターを設置し、小学校から科学への興味を育む。	行政
10	文化施設として建物を大きくする、ホールを併設する等目立つ取り組み	発信力強化のため、文化施設としての建物を大きくする、またホールを併設するなどの施設整備を行う。	行政
11	歴史的遺産の活かし方個人的には出口様(大本教)のすごさに感動する。発信力(誰に、どのように伝えるか)	発信力強化を図るとともに、歴史的遺産の活用方策を検討。	協働
12	ガレリア改装、増築、旧用地取得(立体田)	ガレリアの改装・増築を行うとともに、立体駐車場等の設置に向けた用地取得を検討。	行政
13	文化資料館・Web ページ・Instagram・Twitter 等 SNS 発信(持続可能な)	文化資料館の情報について、Web ページはもとより、Instagram や Twitter 等の SNS を活用し、持続可能な情報発信を行う。	協働
14	※地域史を学ぶことの大切さに気づく機会それは文化資料館※歴史の流れの中にいる自分を感じられる	(※意見内容として掲載するにとどめます)	-
15	(1)創ろう学びの……はとってもいい標語になるのでは	(※意見内容として掲載するにとどめます)	-

◇ 第5回 提言内容の確認

① 生涯学習・芸術

No.	取組(施策や事業)案	取組の主体案	協議後	
			取組(施策や事業)	取組の主体
1	自然、歴史・文化、風俗、音楽、絵画を楽しむ、学べるような施設の整備	協働	—	—
2	芸術家と市民の交流の場を創出するなど、生涯学習都市であることを前面に打ち出すことによる、シビックプライドの醸成	協働	—	—
3	学術研究都市や首都圏など、他市町村との連携を図るとともに、サテライトオフィスの誘致の検討	行政	学術研究都市や首都圏など、他市町村との連携を図るとともに、サテライトオフィスの設置の検討	—
4	乳児から高齢者、それぞれのライフステージに応じて、生涯学習を再定義し、ライフステージごとの取組の推進	協働	—	—
5	生涯学習の学びの好循環の(学びをつなげていく)視点に、人材育成や市民協働、男女共同参画の視点を盛り込んで事業を実施していく	協働	—	—
6	歴史を学ぶ場、亀岡への郷土愛を育む場として資料館を位置づけるとともに、新資料館建設の早期実現	協働	亀岡の歴史・文化を学ぶ場、亀岡への郷土愛を育む場として文化資料館を位置づけ、内容の充実を図るとともに、新資料館(博物館)建設の早期実現	—
7	総合型地域スポーツクラブの推進など、すべての市民が生涯スポーツを楽しむことができる仕組みの推進	協働	—	—
8	市民が取り組んできた趣味・特技を共有するための趣味の会やサークルが組織しやすい仕組みづくりとともに活動内容の充実を図り、その受け皿となる公民館・自治会館の利用対象を広げるなど開放し、利用者同士の交流を活性化	協働	—	—

9	資料館独自のホームページの構築による、持続可能な情報発信の推進	行政	文化資料館独自のホームページを開設し、持続可能な情報発信の推進	—
---	---------------------------------	----	---------------------------------	---

② 地域・家庭

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	主に就学前の子どもを持つ親を対象とした、気軽に足を運べ、親同士が子育てに関して情報交換したり交流できる地域のコミュニティづくり	協働	—	—
2	就学後の学習意欲の格差をつくらないう、親に対し、就学前教育の大切さの周知	行政	—	—
3	各地域における児童館の充実	行政	—	—
4	放課後における子どもの居場所の確保	協働	—	—
5	自然を生かした公園などをつくったり、今ある公園を充実させるなど、人が集える場所の創出	協働	—	—
6	市内各所にスポットを整備し、歩いて学べるような仕組みの構築	協働	—	—
7	子どもが亀岡への愛着を育むことができるよう、地域教育の充実を図り、市を支える市民の育成	協働	—	—
8	図書館の利用ルールを変更し、学習・勉強の場として利用できるようにするなど、利便性の向上	行政	—	—
9	食育の推進・普及	協働	—	—

③ 学校教育

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	障がいのある児童生徒や外国人児童生徒のコミュニケーションを円滑化すべく、支援のための教員の増員	行政	障がいのある児童生徒や外国人児童生徒のコミュニケーションを円滑化すべく、支援の充実を推進する (提案の根拠) ・教員の数は児童生徒数による定数があり簡単には増員できない。自治体で行うと多額な費用が必要なこと ・行政だけでなく市民ぐるみ(ボランティアの有効活用等)で推進する	協働
2	それぞれの子どもにあったカリキュラムを市民の手で構築するなど、子どもたち一人一人を大切に教育の充実	協働	—	—
3	学校におけるノーマライゼーションの推進	行政	—	—
4	ふるさと教育に留まらず、実践学習として外での体験活動の活発化	行政	—	—
5	学校の空き教室を有効利用すべく地域に開放し、地域における生涯学習の拠点や自習スペースのとしての整備の推進	協働	—	—
6	校外授業を増やし、住んでいる地域の外の亀岡にふれる学習の推進	行政	—	—
7	施設面(ハード)の整備と教育内容面(ソフト)の充実を意識した、各学校における双方の適切な均衡が図られた教育行政の推進	行政	—	—
8	小学校のみでなく、中学・高校においても地域やふるさとについて学ぶ機会の創出	行政	小学校のみでなく、中学・高校においても地域やふるさとについて学ぶ安全な新文化資料館(博物館)の早期実現	—
9	学校内への図書館の分館設置による、学習機会の充実	行政	—	—
10	フリースクールなど、子どもの多様な学びを支援するシステムの充実	協働	—	—
11	多様な性的指向や性自認の子どもたちに対する適切な支援の充実	行政	—	—

④ 社会教育

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	亀岡市在住の外国人に向けて、日本語教育の支援を行う	行政	在住外国人に対して、日本語習得支援を行う	—
2	情報発信を地域のケーブルテレビで行う	行政	—	—
3	情報センターや学習センターとしての図書館という位置付けのもと、学習スペースの拡充。また、新刊の取り扱いの増加や開館時間の延長	行政	—	—
4	図書館やギャラリーなどの既存施設について、発信力強化のための整備、若者のニーズに沿った活用方策の推進	行政	—	—
5	地球環境子ども村活動の充実・推進	行政	—	—

6	亀岡市の歴史遺産の活用方策の検討、情報発信の推進	協働	—	—
7	ガレリアの改装・増築を行うとともに、立体駐車場等の設置に向けた用地取得の検討	行政	—	—

【生活産業、産業】分科会

◇ 第1回 亀岡市の良いところ、課題（ワールドカフェ形式）

～生活環境～【自然環境、地球環境・省エネルギー、資源循環・廃棄物処理、市街地、景観保全・形成、公園・緑地】

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）	
● 自然が豊か。整備すれば広場ができる	
● 自然が多いので環境保全をもっとした方がいい	
● ほどよく田舎であり京都市にも近い(場所にもよるが)	
● 自然が多い	
● どこにでもある普通の風景	
● 自然環境の良い所／プラスチックごみに対する考え方、方針	
● 自然や緑を活かした街づくりに力を入れ、まちの活性化に取り組む一部としているところ	
● 山、川をはじめ、自然の中で生活することで健康ですこやかな生活が出来る	
● 思いやりのある人が多い	
● 古民家	
● 水が美味しい。いつまでも現在の味(?)を維持してほしい	
● 自然環境が素晴らしいのでこれを生かす方策	
● 亀岡の自然景観／歴史好きの方の集まりの資料館友の会でも、亀岡の一番の魅力は自然景観とアンケートの答えがある	
● 環境対策に対して先進的であるところ	
● なにも前へ出て積極的に活動しないところ	
● 日々の生活には、空気よし・買い物の便利よしで住むだけなら大変良い	
● 緑豊かな土地／・田園風景／・環境を意識した取り組み(リユース食器)	
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）	
● 子どもが自由に遊べる場所がない(ボール禁止の公園が多い)	
● 公園が少なく子どもが長時間遊べる場所がない。(丹波自然公園のように)	
● 新しいものだけを創りだすのではなく、すでにある資源の整え方、残し方、伝え方	
● 施策とニーズのミスマッチ	
● 子どもが成長すると出ていく	
● 自然の素晴らしい所やことを気付いてない方も多く、もっと知ってもらう必要がある	
● 良い所を組み合わせ活用することで、今後の亀岡が良くなるよう考えていかなければならない	
● 広大な土地柄につき、交通アクセスの整備が必要	
● 遊べる公園づくり(ボール遊びをしたら 110 番!?)	
● 災害対応や日々の暮らしを守れていない道路整備	
● 古民家の減少	
● 市全体のデザインを統一していくこと(亀岡に来た時の第一印象がパツとしない)	
● 野良猫の対策を考えてほしい。沢山の猫が糞や小便をして困る。いずれも野良猫の仕業	
● 地元で空き家バンクに登録していく動きが弱い	
● 空き家が増えている	
● 交通の便が悪い	

～産業～【農業、林業、商業、ものづくり産業、観光、就労支援】

亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）	
● 地元野菜の生産や販売、観光資源(里山の風景)などが点在していて豊富にある	
● 土地が良い。生活に必要な施設がだいたいまとまっている	
● PR できる歴史的な材料はある	
● 自然豊か。都市に近い	
● 土地は良いところが多い ⇒ 色々な企業を呼んでこられる	

● 市内に JR4 駅がある
● 都市部への通勤圏
● 水田・自然の豊かさ！！
● 特産品も多く自然環境は申し分ない。これを観光など経済効果につなげたい
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 観光面でも積極的に動くこと。保津川船着場、トロッコの駅周辺は、ほったらかしになっている
● 良さが点在していてつながっていない。人や物呼び込むしかけが必要
● 企業誘致を積極的に行い、京都5～6大企業の1つでも誘致すれば、若い人の働く場を提供できる
● 観光 PR が少ない
● 否定的、閉鎖的、企業連携不足（まかせつきりも含め）
● 施設の利用方法
● 若者が仕事につけるところがない ⇒ 企業誘致 or 農業支援
● ある日突然観光地がやって来た（トロッコ列車、ラフティング、地域住民との温度差）
● 観光地と地元がうまく融合できていない
● 農家の支援（特に兼業農家）
◇ 第2回 亀岡市の良いところ、課題（以降、分科会形式）
① テーマ・キーワード
亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 亀岡の方は「亀岡」が好き。マスコミに「亀岡」があるとチェックする
● つながる亀岡市、来てみた亀岡市、流れをたのしむ、深まる深める
● 引き継いでひらく
● 個人で起業してくらせる ・ワクワク、生き活きる亀岡
● あ、いいね！ 亀岡市
● 自然・くらし・子育てまると楽しむ亀岡
● 人がつどいしごと安心してくらせる亀岡（仕事・子育て・老後も安心）
● 農業で健康寿命が延びる貸し農園
● 駅前の充実里山の十実「重実の亀岡」
② 自然と都会が出逢うまち（子育て環境）／自然も子どもも豊かに育むまち
亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 人、仕事マッチングして市民だれもが生き活きている亀岡
● フォロワー力 ついていく やる気 助けようとする技術はある
● ボランティアによる環境整備、自然の資源を生かす → 先頭に立つ呼びかけ人がいれば多数協力
● 亀岡の水がおいしい
● 環境整備都市プラごみなど
● 自然と生活の場の共存、都会に近い
● 子育て環境がよい所に人は住む
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 65 才以上の高齢者率多い(40.7%) → 65 才以上の高齢者の方(に限らず)
● 持っている智慧や力の出し所をしかけること → 元気な高齢者へ
● 人生の通過点としての居住地
● 野良猫がふえてきた住宅地近く
● 子供の頃、地元で生活用品のほとんどが買えた → 大型店進出 → 買物の足がなくなる
● 公園が少なく…子どもは公園が無くても遊ぶ事が出来る事を大人が知らないだけ？
● 街路の整備市民と協働で
● 自然豊かと言うが亀岡の山も田も人が作ってきたものであるという事に気づけていない
③ 二層化する亀岡の観光（輝く亀岡を觀に来て！ 裏の亀岡を歩きに来て！）
亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 空気感
● 歴史と伝統があるし、大河も来る

●	散歩したくなるゆったりした町並み空気感
●	余白あり
●	“亀岡”を“カフェ”に
●	まるごとガーデンの推進
●	変化がある継続だけではないアップデート Llive
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）	
●	市がおしている観光地と市民の生活が離れている
●	低年齢の子どもが遊べる公園がない
●	新しい流行のデザインを意識しすぎ
●	市民が求めていることは？
●	駐車場が駅前しか浮かばない
●	屋根つきで座れるところ少ない？
●	滞在しづらい
●	公衆のお手洗いが少ない
④ 「はたらく」があるまち亀岡／しごと（企業・就業）	
亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）	
●	個人経営のお店が多い＝専門知識の集まり
●	利用したくなる。頼れる大人がたくさんいる
●	利用者には開かれている
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）	
●	働き口としては閉鎖的？そこで働けるイメージがない
●	若者(だけではないけど)が外に出ることを容認できる方がよい
●	“戻ってきたく”なるまちを目指す
●	職業で市外に出ていってしまう
⑤ 「つながる」「広がる」「秘めている」亀岡の産業	
亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）	
●	産業 市内にバイパス IC が4ヶ所所有 企業を呼ぶには？
●	休耕田の増加 → 借りれる田畑が増加
●	作りたい人は多いが住める環境(家)が不足
●	未来とはなつかしいものが必要
●	お金だけにたよらない生活(時代)(越えたものは何か)
●	カフェ・ゲストハウスののびしろ大
●	寒暖差が激しくおいしい野菜ができる
●	やる気のある若者はいる
亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）	
●	京都市ばかりを意識している → 大阪、兵庫に軸足を移してもよい
●	点と点をどう線で結ぶのか
●	高齢化で現状のまま変化を望まない方が多い。商店街
●	リサイクルされているのか実態がわからない
●	(数字で示してあるのか)燃料になっているのか
●	創業しようという若者はいるが、場所(テナント)がない(あっても賃料が高い、貸してもらえない)
●	カフェやゲストハウスの開業が困難
●	特産品はあるが全国の人が知っているようなものはない
⑥ よりよい暮らしの条件	
亀岡市の良いところ（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）	
●	活動の原点は自分が楽しいか？という問いがいつも中心にある
●	自分の幸せを守るために人は動く
●	つながりが薄い事が問題ではない(接触をキラウ人も存在する)
●	解決するのではなくまず表現してみよう！

亀岡市の課題（参加者が特に印象に残った・重要だと思ったところ）
● 〈人口減少〉ある意味当然の流れ 正面から受け止めよう【3千万人(全国)ぐらいが最適？】
● 伝統とは革新の連続なり できるかな？
● 犯罪者を立ち直ることへの意識改革
● 健康寿命を延ばそう(平均寿命－健康寿命＝介護期間)

◇ 第3回 取組アイデア及びプロジェクト名の検討

① 移動手段・共有

内 容（取組アイデア）
● 移動手段の確保・充実
● 資源の共有・レンタルに寛容 空き店/空き家/自転車
● 公共バスの利用・充実
● カーシェアリング
● ふるさとバス
● ボランティアによる移送システム(運営サポート)

② 趣味・生涯学習

内 容（取組アイデア）
● オープン 趣味を実益に
● 公民館・自治会館を開く
● 趣味の会、サークルを作る
● 習い事の取組(色んな流れ)
● 講座をよりよく
● 個人の趣味が発揮できる環境整備の必要(公民館や自治会)
● 社寺を学びの場とする
● サークル等のデータベース化(一元化、例「きらり」掲載のサークルや講座、社協登録のサークルなど)

③ ゴミ・空き家問題

内 容（取組アイデア）
● 空き家・ゴミ屋敷・問題化
● ごみ問題、分別できない 持って行けない(持って行けたとしても誰かがやってくれる) モラルの低下
● 農村の空き家の利用交流の場所
● ゴミに対する諸問題(分別、…)
● マイボトル、プラスチックゼロ実践への支援(個人にも、企業や業者にも)
● 空き家をアートの利用空間
● 有料ゴミ袋の値上げにより、ゴミ意識の向上を図る
● 市民全員の参加で仮称(かめおか市民8万人大清掃隊)を作り、皆でゴミのない美しいまちづくりの推進や空き家については随時市民から情報提供の支援を共同で実施

④ コンパクトシティ・集約化

内 容（取組アイデア）
● コンパクトシティに向けた取組
● 駅を中心とした街づくり(コンパクトシティ) 店舗・住居・病院スーパーetc すべてまかなえる
● マイナンバー利用拡大(先端市)
● 病院やレジャー施設・憩いの場を駅周辺に設置
● 自治会事務所付近へ

⑤ 先端産業

内 容（取組アイデア）
● 環境技術の取り込み→排水・においの活用
● 排水・汚物・無臭化→農業利用・処理→サイクル化・有用化
● AI 利用の先端技術開発(医、工、産、農、森、…)
● 土の利用
● 先端大学と連携し亀岡産の産業を開発し推進する

⑥ 企業・個人事業

内 容（取組アイデア）
● (チャレンジできる) チャレンジショップ(空き店舗の家賃が高い)
● 企業の講座の開催、知識の付与
● 失敗を許す土壌
● 産業誘致、企業誘致
● 産業間の交流・集積
● 昭和時代の店
● 本社を誘致(大企業でなくても)

⑦ 農林業・商工業

内 容（取組アイデア）
● 世界に販売できる農産物の生産
● サラリーマン農家
● (例) 亀岡牛→技術革新(研究開発)
● 世界のブランド→牛小屋の最適環境
● 丹波地鶏
● 休日農家
● 生活用品のポストの設置(宅配便が留守によって配れない、買い物に行く足が不便といった課題を解決するための仕組みの支援)

⑧ 観光

内 容（取組アイデア）
● 都会から亀岡に
● 自然を満喫できるレジャーランド
● 体験型農業、工業
● 亀岡の自然景観の見どころをつないだプロモーションビデオ(市民参加で制作)と情報発信
● 亀岡ディズニーランド構想の復活(スタジアム、市内観光レジャーを含む)
● 低料金宿泊施設の強化
● 走る観光・歩く観光

◇ 第4回 提言内容及び取組主体の検討

① 移動手段・共有

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	移動手段の確保	市内の移動が円滑に行えるよう、移動手段の確保を行う。	行政
2	移動手段の充実	さまざまな移動手段を充実させ、市内の移動が楽しめるよう取り組む。	協働
3	資源の共有・レンタルに寛容 空き店/空き家/自転車	店舗や空き家、自転車といった資源の共有化を図るとともに、レンタルなどシェアの視点に寛容になるよう意識の醸成を図る。	協働
4	公共バスの利用・充実	公共バスの利用について、充実を図る。	行政
5	カーシェアリング	カーシェアリングの普及。	事業者
6	ふるさとバス	ふるさとバスの充実。	行政
7	ボランティアによる移送システム(運営サポート)	ボランティアによる移送システムの構築とともに、運営サポートを行う。	協働

② 趣味・生涯学習

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	オープン 趣味を実益に	市民一人ひとりの趣味を共有するとともに、実益につながるよう講座を開設し、内容の充実を図る。	協働
2	公民館・自治会館を開く	公民館・自治会館が足を運びやすい場となるように情報発信。	市民
3	趣味の会、サークルを作る	趣味の会やサークルが組織しやすいような仕組みづくりとともに、内容の充実を図る。	協働
4	カメラ講座をする	カメラ講座を実施するなど、市民が学んできた経験・知恵を共有する。	協働
5	習い事の取組(色んな流れ)	習い事などの講座を開設し、市民の参加を促す。	協働

6	講座をよりよく	講座の内容を充実し、より多くの市民が参加できるよう取り組む。	協働
7	個人の趣味が発揮できる環境整備の必要(公民館や自治会)	公民館や自治会の場合など、市民一人ひとりが趣味で培ってきたものを発揮できる環境整備を行う。	協働
8	社寺を学びの場とする	社寺が学びの場となるような取り組みを進める。	市民
9	サークル等のデータベース化(一元化、例「きりり」掲載のサークルや講座、社協登録のサークルなど)	サークル等のデータベース化を推進することにより、市民がサークルや講座への参加を円滑化する。	行政

③ ゴミ・空き家問題

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	空き家・ゴミ屋敷・問題化	空き家やゴミ屋敷が問題化していることから、それらの解決に向けた取組を行う。	協働
2	ごみ問題、分別できない 持って行けない(持って行けたとしても誰かがやってくれる)モラルの低下	ゴミを分別せずに捨て、地域の組長などに分別を任せるといったモラルの低下がうかがえることから、ゴミ問題についての意識啓発を行う。	協働
3	農村の空き家の利用交流の場所	農村に点在する空き家を交流の場所として利活用する。	協働
4	ゴミに対する諸問題(分別、…)	ゴミの分別に関する市民の意識向上を図る。	協働
5	マイボトル、プラスチックゼロ実践への支援(個人にも、企業や業者にも)	市民一人ひとりに対して、さらに企業や業者に対してもマイボトル、プラスチックゼロ実践への支援を行う。	行政
6	空き家をアートの利用空間	空き家をアート空間として利活用する。	協働
7	有料ゴミ袋の値上げにより、ゴミ意識の向上を図る。	有料ゴミ袋の値上げにより、ゴミ意識の向上を図る。	行政
8	市民全員の参加で仮称(かめおか市民8万人大清掃隊)を作り皆でゴミのない美しいまちづくりの推進や空き家については随時市民から情報提供の支援を共同で実施	市民全員参加により、一斉に清掃活動を行う。また、空き家については市民からの情報提供を促す。	協働

④ コンパクトシティ・集約化

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	コンパクトシティに向けた取組	亀岡駅前のみならず、市内の JR 各駅においてのコンパクトシティに向けた取組の推進。	協働
2	1F 店舗	1F店舗の集約化を図り、顧客の流動化を促す。	協働
3	駅を中心とした街づくり(コンパクトシティ)店舗・住居・病院スーパーetc すべてまかなえる	店舗・住居・病院・スーパーなど、生活に必要なすべてがまかなえるよう、駅を中心としたまちづくり(コンパクトシティ化)の推進。	協働
4	マイナンバー利用拡大(先端市)	マイナンバーの活用方策を拡大化。	行政
5	病院やレジャー施設・憩いの場を駅周辺に設置	駅周辺に病院やレジャー施設・憩いの場を設置し、利便性の向上を図る。	協働
6	自治会事務所付近へ	自治会事務所付近へ集約化を図り、利便性の向上を図る。	行政

⑤ 先端産業

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	においの活用⇄(消すとか)	消臭などの技術開発とともに、においのあるものとして活用する。	協働
2	→③環境技術の取り込み→排水・におい	排水やにおいについて、環境技術を活用して対策を講じる。	協働
3	→④排水・汚物・無臭化→農業利用・処理→サイクル化・有用化	排水や汚物を無臭化するとともに、農業への利活用を進める(サイクル化・有用化)。	協働
4	⑤AI 利用の先端技術開発(医、工、産、農、森、…)	医、工、産、農、森などの分野において、AI を利用した先端技術の開発の推進。	協働
5	土の利用	土の利活用方策の検討。	協働
6	先端大学と連携し亀岡産の産業を開発し推進する	京都先端科学大学との連携を図り、亀岡独自の産業を開発・推進。	協働

⑥ 企業・個人事業

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	(チャレンジできる)チャレンジショップ(空き店舗の家賃が高い)	空き店舗の家賃を抑えながら、チャレンジショップとして活用し、商業活動の活性化を図る。	協働
2	企業の講座の開催、知識の付与	企業による講座を開催し、専門知識の付与を図る。	協働
3	失敗を許す土壌	挑戦者の失敗を許すような土壌づくり。	市民
4	産業誘致、企業誘致	産業活性化のために企業誘致を行う。	協働
5	産業間の交流・集積	産業間の交流・集積を図る。	協働
6	昭和時代の店	昭和を感じる店づくりを行い、集客を図る。	事業者
7	本社を誘致(大企業でなくても)	大企業でなくとも本社機能誘致を図り、活性化を図る。	行政

⑦ 農林業・商工業

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	世界に販売できる農産物の生産	世界展開を視野に入れた農産物を生産する。	事業者
2	サラリーマン農家	農家をサラリーマンのように安定した収入が得られる職業となるよう取り組む。	事業者
3	①(例) 亀岡牛→技術革新(研究開発)	亀岡牛を技術革新と掛け合わせるにより、研究開発を行う。	事業者
4	②世界のブランド→牛小屋の最適環境	亀岡牛の世界的展開を見据え、牛小屋の最適な環境構築、その技術を販売するなどの取組を行う。	事業者
5	丹波地鶏	丹波地鶏のさらなるブランド化の推進。	協働
6	休日農家	休日に農家として農業に従事できるような環境づくりの推進。	事業者
7	生活用品のポストの設置(宅配便が留守によって配れない、買い物に行く足が不便といった課題を解決するための仕組みの支援)	生活用品のポストを設置することにより、生産者と消費者を直接的につなぐ。	事業者

⑧ 観光

No.	第3回意見内容	第4回協議内容	
	取組アイデアなど	提言内容案	取組主体案
1	都会から亀岡に	都会から亀岡に来てもらえるよう、情報発信の充実とともに、回遊の仕組みづくりを行う。	協働
2	自然を満喫できるレジャーランド	亀岡ならではの自然が満喫できるようなレジャーランドの建設。	事業者
3	体験型農業、工業	亀岡の農業や工業を体験できるような仕組みの構築。	協働
4	亀岡の自然景観の見どころをつないだプロモーションビデオ(市民参加で制作)と情報発信	亀岡の自然景観の見どころをつないだ、市民参加によるプロモーションビデオを制作するとともに、情報発信を行う。	協働
5	亀岡ディズニーランド構想の復活(スタジアム、市内観光レジャーを含む)	亀岡ディズニーランド構想を復活させるとともに、スタジアムや市内観光レジャーを位置づける。	協働
6	低料金宿泊施設の強化	宿泊施設の低料金化を図り、滞在客の増加を図る。	事業者
7	走る観光・歩く観光	亀岡の観光について、「走る」「歩く」の視点から展開する。	協働

【参考】プロジェクト名

No	内容
1	美味しさ“ぎゅっと”プロジェクト
2	はじめの一步塾プロジェクト
3	世界にはばたく亀岡の“食”プロジェクト
4	「活きる」シェアプロジェクト
5	亀岡のゴミ問題を考える行動するプロジェクト
6	亀岡市がV字回復するために、住み良い町にして人口増につなげる(背景として、亀岡市は京都府の市町村人口ランキング現在3位である一方、人口減のため、城陽市や京田辺市等の南部地域に追い抜かれる可能性が高い。そのことは財政を圧迫しあまり良いこととは言えない)
7	保津川下りや湯の花温泉、亀山城、スタジアム等を上手に運用し、観光客が亀岡にお金を落とせるよう観光に注力する。市のホームページを海外の方でも分かりやすいように環境整備を行う。また、活気ある亀岡にすることが、引いては住みやすいまちにつながる
8	亀岡“魅力”いっぱいプロジェクト
9	人と自然、まるごと
10	亀岡まるごと発展プロジェクト
11	亀岡元気プロジェクト

◇ 第5回 提言内容の確認

① 移動手段・共有

No.	取組(施策や事業)案	取組の主体案	協議後	
			取組(施策や事業)	取組の主体
1	高齢者が免許を返納した後、買い物に行くなど生活維持のために生じる移動手段イメージの明確化(他自治体の取組を参考にするとともに定着を図る。また、移動の充実とともに交流機会も増えることから、それが生活の質の向上にもつながりうるという情報発信の充実)	行政	—	—
2	移動するための資源の共有化を進め、市民はもとより、観光に訪れる人が市内の移動をも楽しめるような環境の充実	協働	—	—
3	店舗や空き家、自転車といった資源の共有化を図るとともに、レンタルなどシェアの視点に寛容になるような意識の醸成	協働	—	—
4	高齢者の移動がスムーズになるよう、ふるさとバスの目的の明確化とともにコミュニティバスとの棲み分け・充実。また、NPOや民間事業者による移送システムの充実	協働	—	—

5	農業従事者が作物を出荷する際、タイミングを計って他の従事者と相乗りし、出荷ができるような仕組みづくり	事業者	—	—
---	--	-----	---	---

② ゴミ・空き家問題

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	問題化する空き家やゴミ屋敷の解決に向けた取組の推進	協働	—	—
2	空き家について、市民からの情報提供がしやすくなる仕組みづくり	協働	—	—
3	ゴミを分別せずに捨て、地域の組長などに分別を任せるといったモラルの低下がうかがえることから、ゴミの分別やゴミ問題に関する意識啓発を行い、意識の醸成を図る	協働	—	—
4	有料ゴミ袋の値上げにより、ゴミ意識の向上を図る	行政	—	—
5	マイボトル、プラスチックゼロの実践へ向けて、市民一人ひとりに対してはもちろん、企業や業者に対してもさらなる支援を行う	行政	—	—
6	農村に点在する空き家を交流の場所として利活用する	協働	—	—
7	空き家をアート空間として利活用する	協働	—	—
8	市民の全員参加による一斉清掃を実施する	市民	環境先進都市推進の組織体制の構築とともに、脱プラ・エコのまちの取り組みを推進する。その中で、市民の全員参加による一斉清掃を実施するなど、循環型社会に資する社会にする	協働

③ コンパクトシティ・集約化

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	亀岡駅前のみならず、市内の JR 各駅前の活性化に向け、店舗の集約化や自治機能の向上を図るなど、コンパクトシティ化に向けた取組推進によるにぎわいづくり	協働	—	—
2	店舗・住居・病院・スーパーなど、生活に必要なすべてがまかなえるよう、駅を中心としたまちづくり(コンパクトシティ化)の推進	協働	—	—
3	駅周辺に病院やレジャー施設・憩いの場を設置し、利便性の向上を図る	協働	—	—
4	マイナンバーサービスの推進を背景としながら、IC カードやペイペイ等の簡易決済サービスの活用に対して、行政職員の理解促進とともに新サービスへの活用を検討	行政	マイナンバーサービスの推進を背景としながら、IC カードやキャッシュレス決済サービスの活用に対して、行政職員の理解促進とともに <u>MaaS</u> への活用を検討	—

④ 先端産業

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	排水やにおいについて、環境技術を活用して対策を講じる一方、においの活用に向けた技術開発を、京都先端科学大学との協働により推進	協働	—	—
2	排水や汚物の無臭化とともに、農業への利活用(サイクル化・有用化)の推進	協働	—	—
3	亀岡の豊かな水とそれを支える土壌(堆積層)の利活用方策の研究・検討	協働	—	—
4	京都先端科学大学との連携を図り、亀岡独自の産業を開発・推進	協働	—	—
5	医、工、産、農、森などのあらゆる分野における、ビッグデータの活用方策の検討	協働	—	—

⑤ 企業・個人事業

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	産業活性化のために企業誘致を推進	協働	—	—
2	大企業にこだわらずに本社機能の誘致を図り、活性化を推進	行政	—	—
3	産業間の交流・集積を図る	協働	—	—
4	企業による講座を開催し、専門知識の付与を図る	協働	—	—
5	ターゲットを絞った集客を図るために、昭和を感じる店づくりの推進	事業者	—	—
6	空き店舗の家賃を抑えながらチャレンジショップとして活用を図り、商業活動の活性化を推進	協働	—	—

7	市民への情報発信を充実し、挑戦者の失敗を許すような土壌づくり	市民	市民への情報発信を充実し、 <u>事業挑戦者がチャレンジしやすい環境づくり</u>	—
---	--------------------------------	----	---	---

⑥ 農林業・商工業

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	世界展開を視野に入れた農産物を生産する	事業者	—	—
2	農家がサラリーマンのように安定した収入が得られる職業となるよう、取組を推進	事業者	—	—
3	スタジアム横の農地を活用し、休日に農家として農業に従事したり、農業にチャレンジできるような、休日農園・チャレンジ農園の整備	事業者	—	—
4	亀岡産木材を活用し、小さい頃から木にふれあうことができるウッドスタート事業の実施。および、一定の年齢における記念品の配付	行政	—	—
5	亀岡牛を技術革新と掛け合わせるにより、研究開発を行う	事業者	—	—
6	亀岡牛の世界的展開を見据え、牛小屋の最適な環境構築、その技術を販売するなどの取組を行う	事業者	—	—
7	丹波地鶏や亀岡ブランド米をはじめとした生産物のアピールを推進するなど、農業・畜産分野のさらなるブランド化の推進	協働	—	—
8	空き家等の有効活用として生活用品ポスの集約化・設置を推進し、生産者と消費者を直接的につなぎ、再配達によるロスを防ぐなどの利便性向上を図る	事業者	—	—

⑦ 観光

No.	取組（施策や事業）案	取組の主体案	協議後	
			取組（施策や事業）	取組の主体
1	都会から亀岡に来てもらえるよう、情報発信の充実とともに、回遊の仕組みづくりを行う	協働	—	—
2	京都との相対化により亀岡観光の印象付けを行うとともに、「走る」「歩く」の視点から展開する	協働	—	—
3	亀岡の自然景観の見どころをつないだ、市民参加によるプロモーションビデオを制作するとともに、情報発信を行う	協働	—	—
4	亀岡の農業や工業を体験できるような仕組みの構築	協働	—	—
5	宿泊施設の低料金化を図り、滞在客の増加を図る	事業者	宿泊施設の創意工夫を図り、滞在客の増加を図る	—
6	亀岡ならではの自然が満喫できるようなレジャーランドの建設	事業者	亀岡ならではの自然が満喫できるようなスポーツ・文化施設の充実	—
7	亀岡ディズニーランド構想を復活させるとともに、スタジアムや市内観光レジャーを位置付ける	協働	オール亀岡花火大会観覧スポットの整備をするとともに、スタジアムや市内観光レジャーを位置付ける	—

⑧ その他（取組案以外に対する意見等）

その他	
未来都市（亀岡） 亀岡市の玄関である亀岡駅があまりにも簡素な印象を受けます。未だに駅前にはロープで張られた医院や老朽化した民家、空き地等、玄関口には首をかしげるような光景があります。将来都市像を語るなら、まず駅前の整備が急務であると思います。様々な提案を提起してきましたが、1つでも成果が得られることを期待します。	
第4回ワークショップ プロジェクト名 No.11 亀岡元気プロジェクト (修正案)かめおかエコのまちプロジェクト (追加)かめおか光秀・スタジアム賑わい創出プロジェクト	

(2) 用語説明

用 語	説 明	初出 ページ
エンパワーメント	組織の構成員一人ひとりが「力をつける」という意味。また、日本では能力開化や権限付与ともいう。	5
協働	市民生活の満足度を高めるため、市民と行政が開かれたプロセスのもと、適切な役割分担のもとで取組を進めること。	1
コンパクトシティ	都市的な土地利用が郊外へ拡大することを抑制するとともに、中心市街地の活性化が図られた、生活に必要な諸機能が近接した効率的で持続可能な都市、もしくはそれを目指した都市政策のこと。	17
サロン	市民が、身近な場所に気軽に出かけ、仲間づくりや生きがいづくりを行い、地域でいつまでもいきいきと暮らせることを目指す交流活動となる場。	10
シビックプライド	都市に対する市民の誇りや愛着を指す言葉で、「シビック（市民の、都市の）」と「プライド（誇り）」を合わせたもの。まち自慢や郷土愛だけではなく、「ここをよりよい場所にするために自分自身が関わっている」という、当事者意識に基づいた自負心を意味している。	13
セーフコミュニティ	事故やけがは偶然に起こるのではなく、予防できるという理念のもと、行政と地域住民など多くの主体の協働により、全ての人たちが安心して安全に暮らすことができるよう取り組んでいるコミュニティのこと。亀岡市では、地域コミュニティの再生、住民主体による安全安心な地域社会の構築、事故や自殺等による死亡やけがの低減を主な目的としてセーフコミュニティの取組を推進しており、国内初の WHO（世界保健機関）の認証を 2008 年 3 月に取得している。	3
ノーマライゼーション	障がいのある人も、健常者と同様の生活ができるよう支援すべき、という考え方に基づいた社会福祉の用語。また、厚生労働省では、障がいのある人もない人も、互いに支え合い、地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていける社会を目指す理念として掲げている。	8
フリースクール	子どもの自由と自主性を尊重することを理念とする学び舎。日本のフリースクールは、不登校の悩みを共有することから生まれた自助団体としての性格が強いが、現在では公立施設も整備されている。	14
ライフステージ	人生の段階を指す。人の一生を、少年期・青年期・壮年期・老年期などのように、人生の節目ごとに段階に分けること。	13
ワールドカフェ	「知識や知恵は、管理されがちな場所で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる“カフェのような空間”でこそ創発される」という考え方に基づいた、話し合いの手法の一種。	2
E.B.P.M	エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案のこと。政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで合理的根拠（エビデンス）に基づくものとする。	27
MaaS	モビリティ・アズ・ア・サービス（マース）。ICT を活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、またその運営主体に関わらず、マイカー以外の全ての交通手段によるモビリティ（移動）を 1 つのサービスとして捉え、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念。また、発達中の新しいサービスであることから、現状の定義としては、先行している海外においても定まったものがない。	17

(3) 市民会議委員名簿

分科会	氏 名	所 属	備 考
【安全・安心、健康づくり・福祉】	石 田 数 美	NPO法人 亀岡子育てネットワーク	
	板 倉 瑛 二	公募	
	井 上 典 代	ふるさと亀岡ガイドの会	
	小 野 奈津子	亀岡市PTA連絡協議会家庭教育委員会	
	玉 記 道 子	京都府女性の船「ステップあけぼの」亀岡支部	
	十 倉 康 吉	亀岡防犯推進委員連絡協議会	
	中 澤 ふ み	亀岡市消防団（女性団員）	
	細 川 武	公募	
	森 洋 子	亀岡市民生委員児童委員協議会	
	八 木 辰 夫	亀岡市青少年育成地域活動協議会	
【生涯学習・教育】	井 尻 浩 嗣	公益財団法人 生涯学習かめおか財団	
	今 井 睦 予	平成31年亀岡市成人式実行委員会	
	大久保 伸 一	一般財団法人 亀岡青年会議所	
	奥 山 理 子	「かめおか霧の芸術祭」実行委員会	
	加 藤 美智恵	亀岡市文化資料館友の会	副会長
	中 島 清 人	公募	
	中 西 一 夫	公募	
	人 見 紀 帆	平成31年亀岡市成人式実行委員会	
	村 田 奈 央	「ファインダー - 京都女学院物語 -」女子広報部	
	森 口 茂	公益財団法人 亀岡市スポーツ協会	
【生活環境、産業】	足 立 潤 哉	亀岡商工会議所青年部	
	井 尻 清 行	亀岡市商店街連盟	
	糸 井 芳 宏	公募	
	裏 川 幸 彦	公益財団法人 亀岡市都市緑花協会	
	江 見 彩 香	「ファインダー - 京都女学院物語 -」女子広報部	
	高 橋 昭 人	公募	
	谷 村 岳 志	若手農業者	
	仲 田 丞 治	特定非営利活動法人 亀岡 人と自然のネットワーク	
	法 貴 雅 男	亀岡市自治会連合会	
	山 本 眞之介	亀岡市保護司会	会 長

(分科会ごとに50音順)

(4) 市民会議開催経緯

	日時、場所	内 容
第 1 回	令和元年 6 月 8 日 (土) 10 時～ 市役所 1 階 市民ホール	【全体会議】 ○委員委嘱 ○市長あいさつ ○正副会長選出 ○市民会議の役割、進め方 ○ワールドカフェによる意見交換 (5 人×6 グループ) ・第 4 次総合計画における 6 つのテーマを各テーブルに分け、亀岡市の良いところ、良くしたいところについて意見交換
第 2 回	令和元年 7 月 6 日 (土) 10 時～ 市役所 6 階 601, 602, 603 会議室	【3 分科会】 ○前回まとめ共有 ○テーブルディスカッション (10 人×3 グループ) ・分科会ごとの良いところ・課題の重点化 ・将来像を実現するための課題
第 3 回	令和元年 7 月 27 日 (土) 10 時～ 市役所 6 階 601, 602, 603 会議室	【3 分科会】 ○前回まとめ共有 ○テーブルディスカッション (10 人×3 グループ) ・取組アイデアを出す ・プロジェクト名の検討
第 4 回	令和元年 8 月 24 日 (土) 10 時～ 市役所 6 階 601, 602, 603 会議室	【3 分科会】 ○前回まとめ共有 ○テーブルディスカッション (10 人×3 グループ) ・取組アイデアから発展させた提言内容を検討 ・提言内容の役割分担を検討 ◆持帰り事項:「目指す都市像」「基本理念」の検討
第 5 回	令和元年 9 月 14 日 (土) 10 時～ 市役所 2 階 201, 202, 203 会議室 及び 1 階 市民ホール	【3 分科会】 ○各分科会における提言内容の確認 【全体会議】 ○目指す都市像、基本理念への提言について ○提言内容案について (各分科会から報告)
第 6 回	令和元年 10 月 26 日 (土) 9 時 30 分～ 市役所 6 階 602, 603 会議室	【全体会議】 ○市長へ提言書提出 ○市長との懇談

